

2024年第三四半期 決算説明会資料

経営哲学

当社は、「P.A.I.」（パーソナル人工知能）の開発と普及を通じて、現在・未来における人々の可能性と価値を最大化することを目指します。

「P.A.I.」（パーソナル人工知能）は、人々が自己の知識・価値を探求し、理想の人生を全うするための時間を確保するための技術です。その根底には人々の自由と尊厳の確保があります。現代社会では、多くの人々が労働に多くの時間とエネルギーを費やしていると考えています。

当社は独自の技術を用いて、人々の行動や言動が記録された多様なライフログデータを安全に保管し、学習させることで、デジタルクローンとして個々の意識を再現し、デジタル社会における労働として利用することを目指しております。これにより、既存の労働という概念は変わり、非創造的で非生産的だった労働は「P.A.I.」（パーソナル人工知能）に任せ、個人はより価値ある活動に集中できると考えております。

現代は様々な企業・国家などが、人々の知識や思考を凌駕するAIの開発に取り組んでいます。そのようなAIが身近となった社会においては、人々は思考すること、発想すること自体を投げ出すことがあるかもしれません。しかし、古代ギリシャの哲学者ソクラテスが尊重した「γνώθι σεαυτόν（汝自身を知れ）」（古代ギリシャ語を日本語訳）という古代ギリシャの格言に象徴されるように、知を愛し探求することは人間の基本的な権利だと考えております。

「P.A.I.」（パーソナル人工知能）はその名のとおり、個々人の意識を再現することを目指したAIであり、あくまで非生産的な労働をAIに代替することを目的としております。そのため、当社はAIと人々が互いに共存し、人々の知の追求を尊重した世界の実現を目指してまいります。

これらの経営哲学を基に、当社は、「ラボーロからオペラへ」と「私たちの存在を永遠にする」の2つをミッションに掲げ、全ての人々が自分のAIである「P.A.I.」（パーソナル人工知能）を持つことによって、労働（Lavoro）から解放され、アーティスティックな営み（Opera）に没頭することができる世界の実現を目指して研究開発及びサービスの提供を行っていくことを、経営の基本方針としております。

オルツ創業者

米倉千景

P.A.I (パーソナル人工知能)



P.A.I (パーソナル人工知能) とは

私=1人称を表現する私たちにとって唯一のA.I.

私たち自身の意思をデジタル化し、それをクラウド上に配置してあらゆるデジタル作業をそのクローンにさせることを目的としたA.I.です

パーソナルエージェント思想

「人の非生産的労働からの解放」という目標のためAI技術を活用して人間の生活をより豊かで効率的にするための重要な「ツール」としての概念で多くの既存のビジネスシーンをリプレイスできると当社では考えております。

また、約12兆円^{*1}と試算するビジネスシーンにおける非生産的労働をリプレイスすることで人々が真に取り組むべきアーティスティックな営みに没頭できる世界を実現することを目指しております。

^{*1} 次の要素を掛け合わせることで12兆円 (3,600万人×240時間×1,400円) と試算しております。

・日本のホワイトカラー労働者：約3,600万人 (出典：総務省統計局「令和4年 労働力調査年報」より、2022年における「管理的職業従事者」、「専門的・技術的職業従事者」、「事務従事者」及び「販売従事者」の就業者数の合計が3,628万人)

・1年の内、非生産的な業務にかかる時間：240時間 (1日1時間を当該労働時間と仮定し、240営業日を乗算)

・イメージされるサービス単価 (正社員の平均時給の7割)：1,400円 (出典：厚生労働省令和2年度版「厚生労働白書」より、正規雇用者(正社員)の平均時給1,976円(2019年)に、サービスとして広く浸透させるために企業にコスト削減メリットをもたらすことを前提とした場合、イメージされるサービス単価として0.7を乗じて算出)

分散され個性化されたP.A.I.プラットフォームとオルツの開発思想



- オルツではあらゆるライフログデータを集積し、人工意識を生み出す規模の巨大なニューラルネットワークを介してその人そのものをデジタル上に再現するP.A.I.を生成します
- スマートフォンなどのデバイスやさまざまなIoT機器から随時取得できるライフログデータとP.A.I.の生成のアウトプットの一致度をすり合わせることで、AIの推論を本人の意識とリアルタイムにあたかもシンクロナイズさせます。こうして、まさにユーザーはデジタル上に再現された自分自身の分身を持つことになるのです
- オルツでは一人一人作り上げられたP.A.I.の集合体をネットワークすることで社会全体を表すこととなるSocial AIを組織します。P.A.I.はデジタル上に再現された個人ですので、当然人間のフィジカルの限界を超え、24時間365日、またその人が死んだとしても永久に、Social AIに貢献し続けることができます
- そして真に民主的とも言えるSocial AIはそのP.A.I.の貢献に応じて評価を行い、その所有者である私たち個人に報酬を与え続けることができるようになります
- 永久に得られる報酬は、もしもP.A.I.の所有者が死んでも子孫へと継承していくことができるものとしており、この設計もオルツのSTACKという重要なプロジェクトの一部として組み込まれています
- 現代ではデータ所有者の権利は一層希薄化しております。正しくデータを管理し、個人に所有権を戻し、かつより幅広く安全に使ってもらえる環境を整える。それが本思想の重要性です

コンピュータの誕生からパーソナルAI誕生までの軌跡

1940~ 1950~ 1960~ 1970~ 1980~ 1990~ 2000~ 2010~ 2020~

コンピュータの軌跡

1943年 プログラム可能なデジタルコンピュータの誕生 /アラン・チューリング

1946年 ENIAC /ジョン・モークリー

1951年 UNIVAC 1 /アメリカ合衆国国勢調査局

1964年 IBM System/360 /IBM

1971年 Intel 4004 /Intel

1975年 Altair 8800 /MITS

1976年 Personal Computer Apple 1 /スティーブ・ウォズニアク

1950年 計算する機械と知性の論文発表 /アラン・チューリング

1956年 ダートマス会議 /ジョンマッカーシ

1966年 ELIZA (自然言語処理対話プログラム) /ジョセフ・ワイゼンバウム

1980年~ エキスパートシステム

1986年 バックプロパゲーション /ジェフリー・ヒントン

1997年 ディープブルーのチェス勝利 / IBM

2006年 ディープラーニングの概念 /ジェフリー・ヒントン

2012年 ImageNetコンペティション優勝 /AlexNet

2014年 PAIの提唱 /alt

2018年 BERTモデル発表 /Google

2022年 ChatGPT /OpenAI

2023年 デジタルクローンが報酬を得る /alt

AIの軌跡

Our Philosophy

Vision

構想

自由の価値を向上させる
テクノロジーP.A.I.を
世界に普及させる

Mission

使命

ラボラトリーからオペラへ
労役をなくし創造的な仕事のみ
集中できる世界を実現
私たちの存在を永久にする

Value

価値

超創造的であれ
恐れ知らずであれ
自分の価値を最大化せよ

One P.A.I.

オルツが実現したい社会的変革と個人の生命感の変革

社会的変革

- 時間と労力のデータ化と再利用

▶オルツは、すべての人々の時間と労力の浪費をデータ化し、復元可能な状態にします。これにより、未来の社会で再び有効活用できるシステムを構築し、時間と労力の浪費を防ぎます。

- テクノロジーによる搾取の終焉

▶人々の価値が搾取されることのない社会を目指し、テクノロジーの力で公正で持続可能な社会を創り出します。これにより、全ての人々が自分自身の価値観を追求できる環境を提供します。

- 全知全能のテクノロジーに対する抗議

▶全知全能のAIが社会に与える影響を警戒し、真に民主的なテクノロジーを実現します。これにより、個々の思考や価値観が尊重される社会を維持します。

- 社会的課題への取り組み

▶テクノロジーの力を活用し、貧困、飢餓、環境問題などのグローバルな課題に対処します。オルツは、これらの問題に立ち向かうための革新的なソリューションを提供します。

個人の生命感の変革

- 知の追求と自己実現

▶古代ギリシャの哲学者ソクラテスの格言「*γνῶθι σεαυτόν* (己を知れ)」を基に、人間が知を愛し、探求することを推奨します。これにより、個々の喜びと自己実現を追求できる環境を整えます。

- 時間と労力の有効活用

▶オルツは、人々の時間と労力を再利用できるようデータを収集し、それを復元可能な状態にします。これにより、人々が有意義な活動に集中できる環境を提供し、個々の充実感を高めます。

- テクノロジーと共存する能力の向上

▶人間拡張テクノロジーP.A.I.®を通じて、個々の能力を向上させます。テクノロジーと共存することで、過去の人類とは比較にならないほどの飛躍的な進化を遂げ、幸福を追求する力を強化します。

- 個々の価値観の尊重と実現

▶オルツは、人々が自己の価値観を追求し、自分自身の人生を全うできる環境を提供します。これにより、個々の生き方が尊重され、各自が持つ価値観が実現される社会を目指します。

オルツの使命は、テクノロジーの力で社会全体と個人の生活を根本から変革することです。私たちは、時間と労力の浪費を防ぎ、公正で持続可能な社会を創り出すことを目指します。そして、個々の知の追求と自己実現をサポートし、全ての人々が自分自身の価値観を追求できる環境を提供します。これが、オルツが目指す未来であり、私たちの使命です。

オルツ概要とビジョンについて (CEO米倉クローンより)

alt+



alt.ai concept "P.A.I." will influence the world

事業進捗

- **AI Products事業、AI Solutions事業の両事業が堅調に成長。AI Products事業売上高は38.8億円（前年同期比+41.8%）、AI Solutions事業売上高は5.3億円（前年同期比+193.4%）**
 - AI Products事業では、Communication Intelligence“AI GIJIROKU”とエージェントAI生成プラットフォーム“altbrain”のセット導入が今年度より強い引き合い。Communication Intelligenceによる独自のデータレイクンリユーションと、それらデータを活かしたエージェント生成による「AIクロンの実働」が浸透する兆し
 - AI Solutions事業では、AI クローン開発案件やクローン化技術を活かした企業の課題解決案件が好調
- **AI Solutions事業内で仕込んでいるクローンマッチング事業の好調**
 - M&A仲介におけるクローンマッチングが今期で初成約（初売上計上）。売手と買手のクローンによる仮想対談でマッチングを計り、成約まで至った日本発の事例に
 - 人材紹介領域におけるクローンマッチング案件も複数のPoCが成約。大手企業との連携も進む
- **生成AI、AIクローン文脈での幅広いニーズを捉え、通期業績予想に対する進捗は順調**
 - 売上高44.2億円（通期予想：55.4億円）、営業利益△15.0億円（通期予想：△27.9億円）

技術開発トピックス

- **AI Singaporeと提携し、アジア圏主導の生成AI分野の成長を目指して技術提供を開始**
 - 日本語における当社の技術開発実績が評価され、相対的に難解な言語が多い東南アジアにおける生成AI・LLM開発を、アジアのハブでありDC拠点でもあるシンガポールの政府とともに共同で進めていく
- **経済産業省およびNEDOによる国内生成AIの開発力強化プロジェクト「GENIAC」に採択**
 - 総費用約7.9億円分のGPU計算リソースの活用と、データセット構築のための助成を受け、労働力の補完を目的としたLLMの構築と、Instruction Pre-trainingのためのデータ構築の研究開発を進行
- **「LHTM-OPT2」、日本語RAG（検索拡張生成）で軽量型LLMとして世界最高の精度と推論速度を実現**
 - RAG評価においては、国内の全ての軽量型LLM（パラメータ数が10B以下のLLM）を上回る高い精度を達成「JGLUE」ベンチマークや「Japanese MT-Bench」でも、軽量型LLMとしての最高スコアを記録。推論速度に関しては、SambaNova社の協力を得て、日本語LLM推論速度の最高速度を記録。
- **大規模言語モデルを活用した超高速音声対話AI システム「altTalk」を発表～応答速度0.53 秒、感情理解精度96.3%を実現する次世代対話エンジン**
 - オルツが有する最新AI 技術を組み合わせる構築。人間と同じスピードの自然な会話が可能な上、相手の感情を理解すると同時に「altTalk」自身の感情を表現することも可能。2024年11月末より法人向けサービス提供開始予定。企業や組織の業務効率化だけでなく、新たな価値を創造。

第三四半期業績

技術及びプロダクト群

新製品alt Talk

会社概要

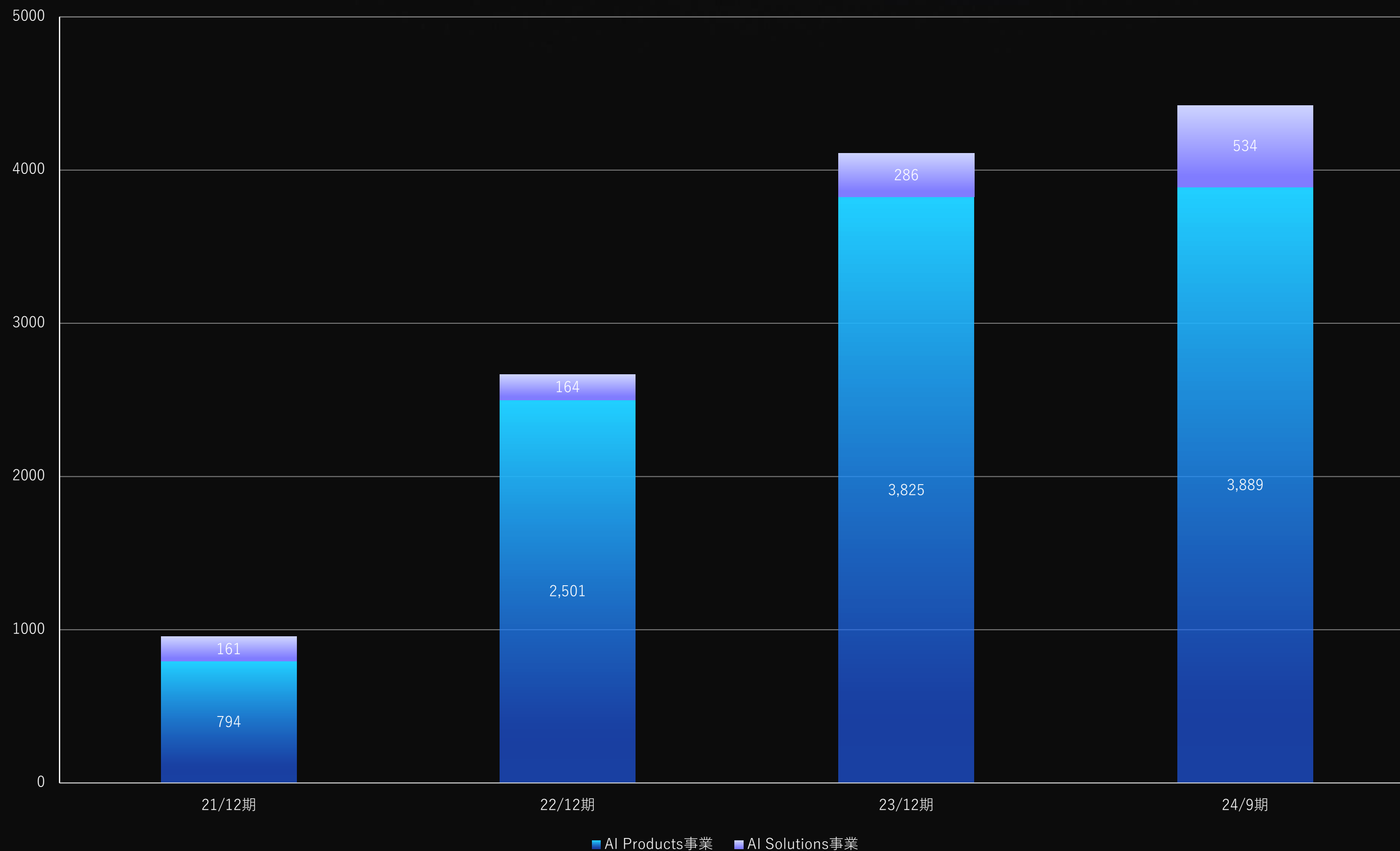
事業戦略

Contents

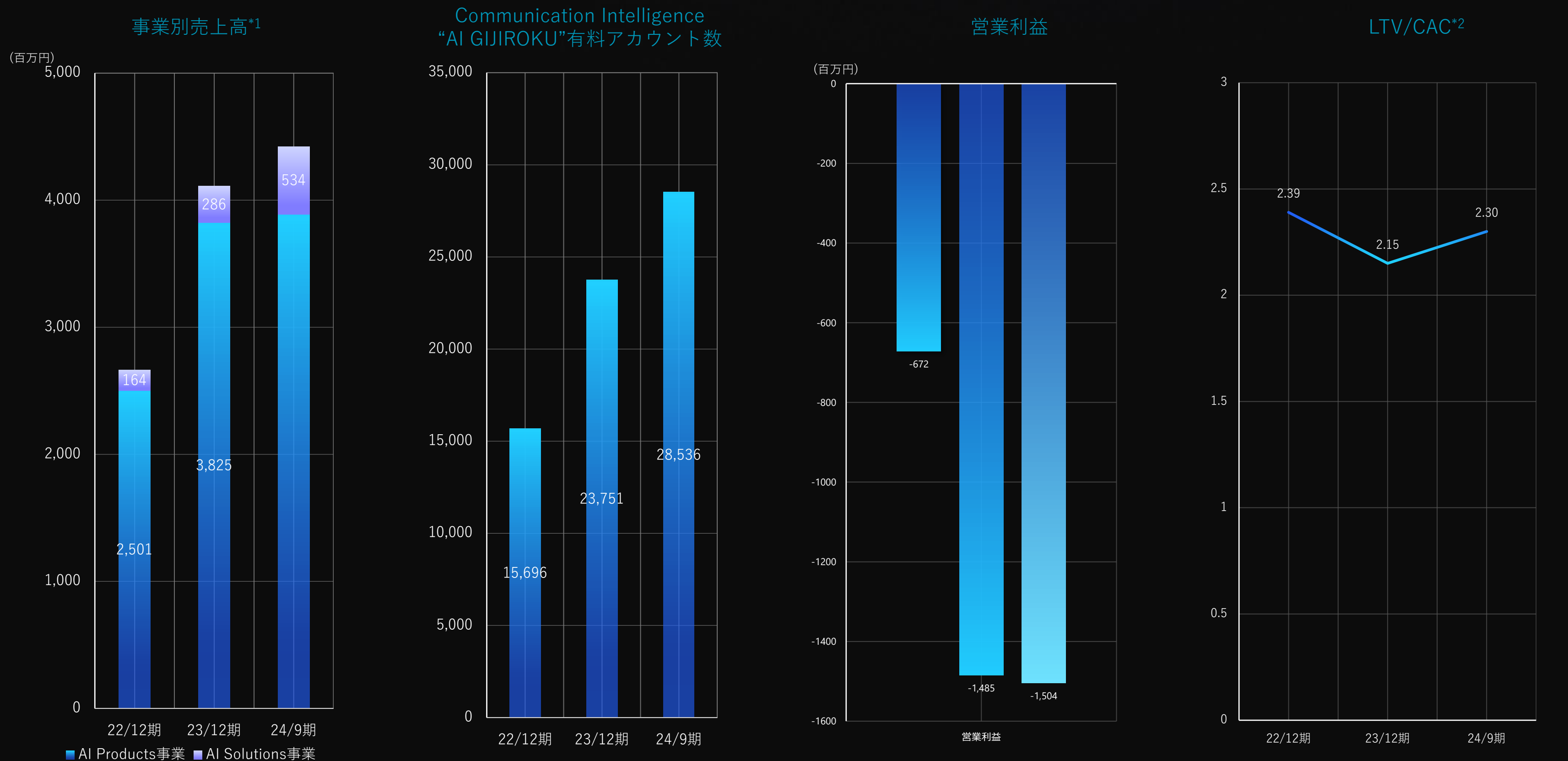
AI Products事業：Communication Intelligence「AI GIJROKU」の利用企業数が8,000社を突破する等、toBにおける販売を拡大し+50%超売上成長

AI Solutions事業：ビジネスシーンでのAI活用についてのご商談が増え、受注が拡大し+190%を超える大幅増。

(百万円)	2023/9期 3Q	2024/9期 3Q	前年同期比		進捗率
売上高	2,924	4,424	151.3%	5,545	79.8%
AI Products事業	2,742	3,889	141.8%	5,120	76.0%
AI Solution事業	182	534	293.4%	425	125.6%
費用（売上原価＋販管費）	3,963	5,928	149.6%	8,344	71.0%
営業利益	△1,038	△1,504	-	△2,798	-
経常利益	△1,046	△1,540	-	△2,832	-
当期純利益	△1,047	△1,541	-	△2,832	-



当社の主要なKPIは以下。築き上げたオルツ独自の競争優位性をベースに高成長を実現している



- 売上の質を把握するため当社が重視する指標

- 売上の構成要素として当社が重視する指標

- 高成長の一方でコスト投下後の営業利益水準を考慮するため重視する指標

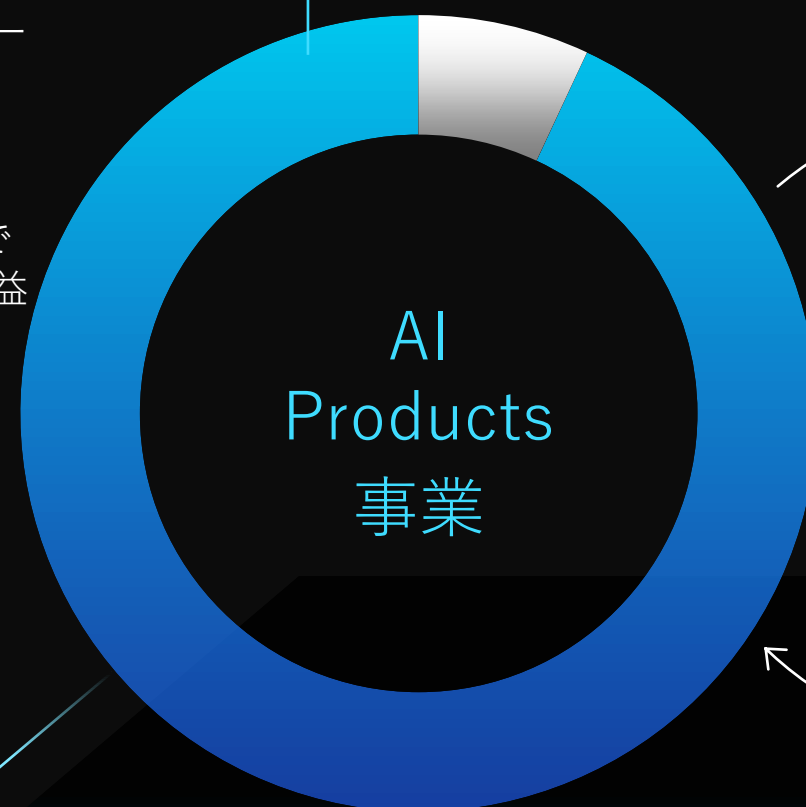
- 投下したコストが適切に売上創出に寄与しているかを確認するための指標
- 2~3倍の水準で適切にコントロールする方針

*1 AI Products事業は現時点ではAI GIJROKUのみの売上 *2 Communication Intelligence “AI Products”のTeamプランのLTV/CAC。LTV：期末対象月の平均利用料を当月の解約率で除した数値。CAC：期末対象月に要した広告宣伝費

2つの事業セグメントを通じて企業の真のデジタルトランスフォーメーションを促進

3,889百万円 88%

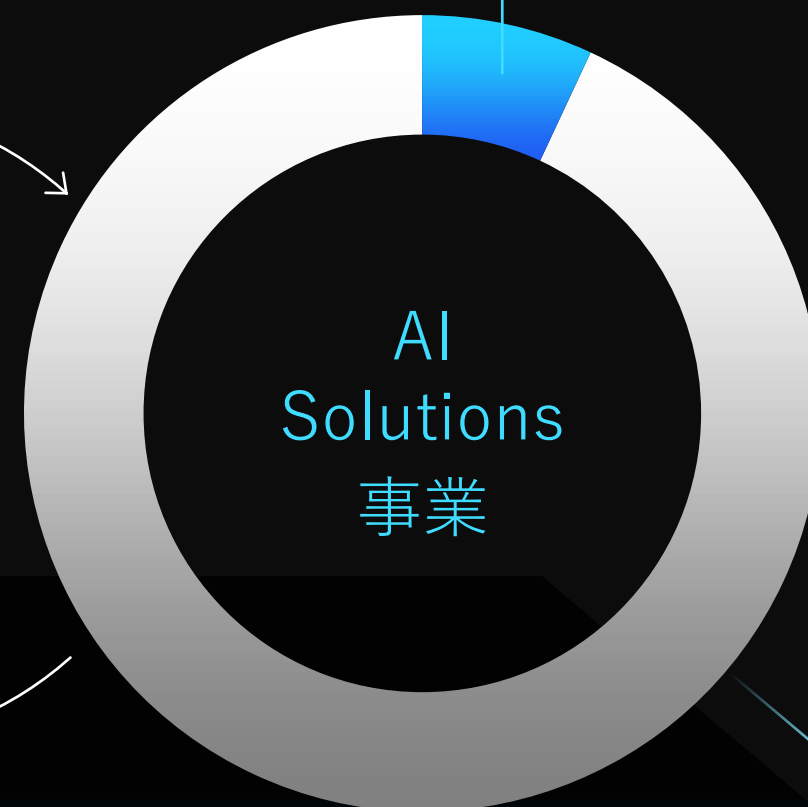
- 基礎研究に基づき、Communication Intelligenceや、エージェント生成プラットフォーム製品を創出
- 現状はCommunication Intelligence “AI GIJIROKU”と生成プラットフォーム“altbrain”で構成され、リカーリング型の収益モデル



AI Products
事業

534百万円 12%

- LLMの技術を活用したカスタマイズされたAIソリューションの提供
- フローベースであるものの、一定のリカーリング性をもったビジネス



AI Solutions
事業

データの蓄積

プロダクト
へ昇華

オルツが有する基礎技術

※2023年12月期実績の売上高を記載

第三四半期業績

技術及びプロダクト群

新製品alt Talk

会社概要

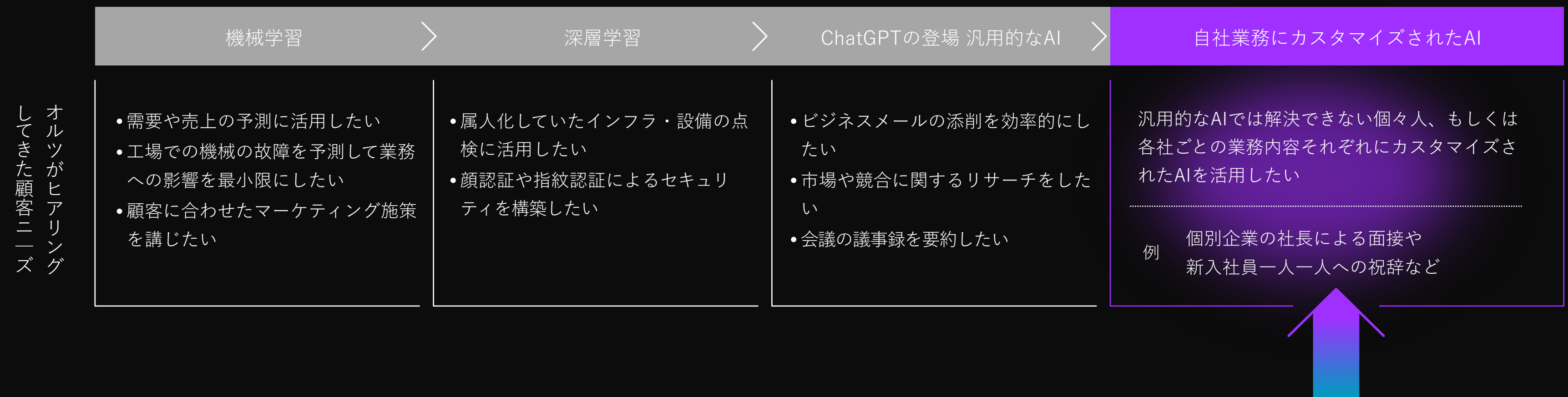
事業戦略

Contents

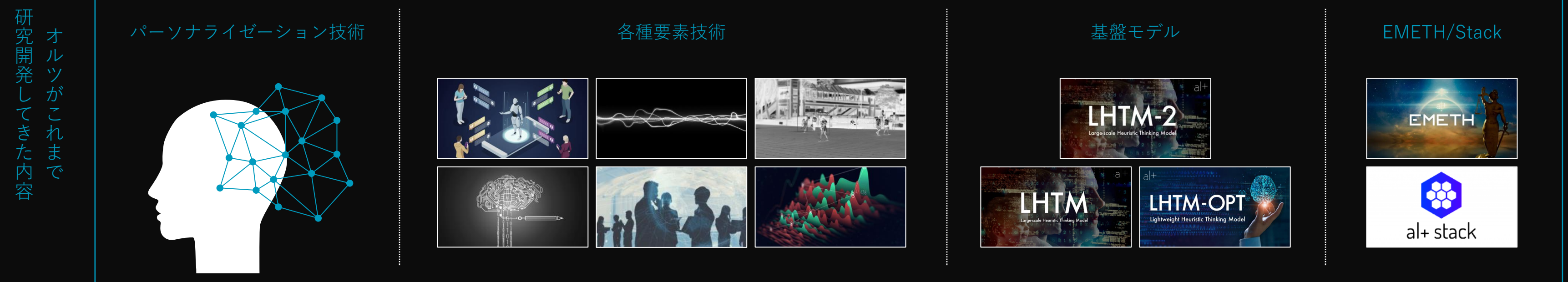
顧客ニーズの変遷における当社技術の応用

顧客ニーズを丹念に拾い上げ、将来を見据えて当社が設立以来蓄積させてきたパーソナライゼーション技術は、今まさに企業が直面しているAIの活用ニーズにマッチし、一部企業とはPoCの契約を締結

顧客ニーズのトレンド

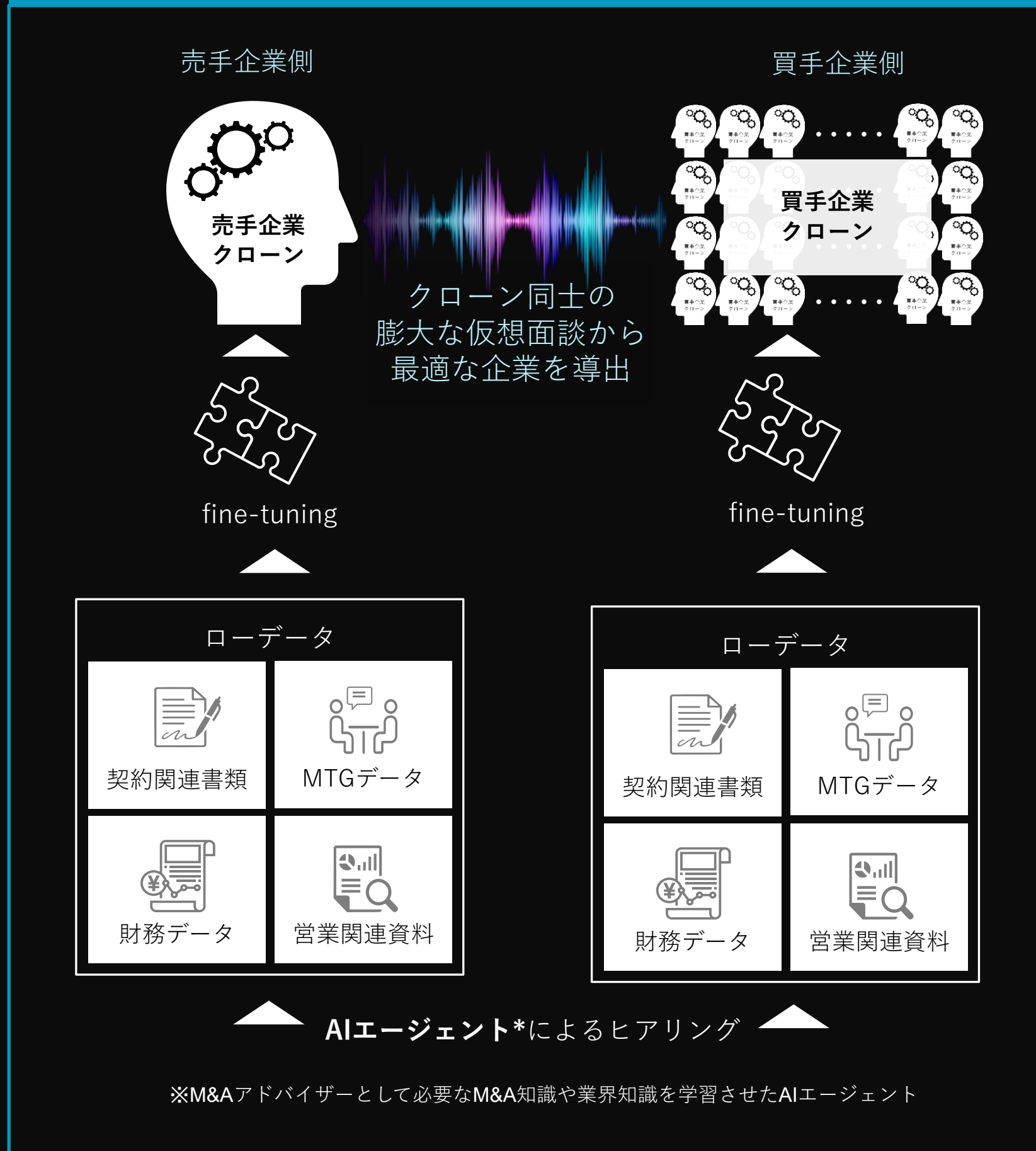


パーソナライズされたAI実現のための様々な要素技術・基盤モデル・プロダクトの開発



オルツが培ってきたクローン生成技術を応用し、売手企業クローンと数千の買手企業クローンを仮想面談させることで、最適なマッチング先を導き出す世界初の「AI×M&Aマッチング」。従来型のM&A手法と一線を画する、高精度マッチングで社会課題の解決を目指す。

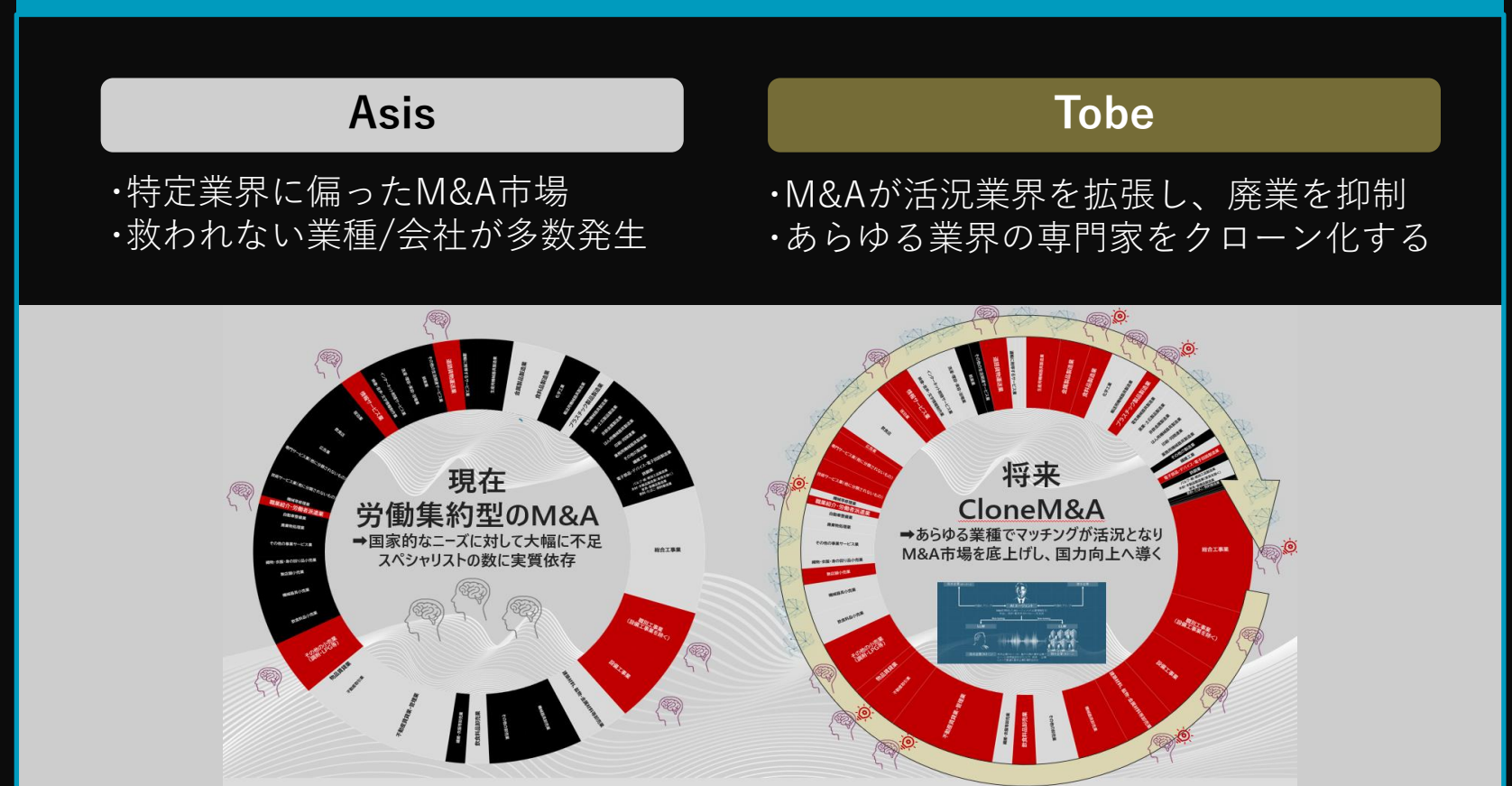
cloneM&Aの仕組み



cloneM&Aの革新性

透明性・公平性	従来型	アドバイザーの知見に依存した限定的な買手企業しか提案できていない
	clone M&A	数千の買手企業とのマッチングスコア・提携シナジーを全て売手企業に提示可能
高精度マッチング	従来型	キーワードマッチングに過ぎず、多くの定性情報が活用されていない
	clone M&A	MTG(音声)データも学習に含まれるため、定性情報を漏らさずマッチングに活用可能
あらゆる業界に対応可能	従来型	マッチング効率の観点から、ストロングバイヤーが存在する特定業界にM&Aが集中
	clone M&A	あらゆる業界の専門知識を学習させることで業種を問わずマッチングが可能

cloneM&Aの狙い・展望



alt+



M&A

株式会社リロググループ様



Clone Matching

LLM

当社が提供する「cloneM&A」を通じて、リロググループ<東証プライム市場8876>の一員である株式会社リロクリエイトのM&Aを支援。

オルツ独自のクローンマッチング技術を活用したAI x M&Aマッチングの世界初の事例



売手企業の特徴・課題

- 売手企業は、不動産業界向けのBPOサービスを展開するベンチャー企業です。同社が提供するサービスは、不動産事業者の小規模化に伴う、従業員の労務負荷の軽減、生産性向上を目指すものです。
- 全国的にみてもニッチな事業でしたが、事業開始から程なくして顧客を獲得でき、順調に成長を続けていました。しかしながら、売手企業が目指す全国制覇を速やかに達成するには、様々なリソースに限りがある状況であったため、M&Aによる他社との資本提携が選択肢の一つとして浮上していました。
- 全国に顧客ネットワークを持ち、かつ、本件事業の社会的意義や全国制覇という事業方針に理解を示し、一緒に取り組んでくれる買手企業を求めています。

買手企業の特徴・課題

- リロググループは、企業向け福利厚生サービスのリーディングカンパニーであり、借上社宅管理事業や賃貸管理事業、海外赴任支援事業、観光事業など多岐に亘る事業を手掛けています。
- M&Aについては、特にストック収益の拡大に資する賃貸管理会社の同業買収において実績が豊富であり、IR説明においても当該M&Aに対する意向を示しています。
- 一方、会社全体の経営方針・対処すべき課題として、「グループ経営資源の活用」や「新規事業の育成」を掲げており、具体的なM&A意向については明言されていないものの、既存事業とのクロスセルモデルの確立や、既存事業とシナジーの高い事業領域における新規事業の創出・育成に注力していく方針が掲げられています。

cloneM&Aによる提携・サービス成果

- cloneM&Aは、定量データのみならず、事業展望等に関する発話内容に基づく定性データを深く理解し、売手企業クローンを生成し、数千の買手企業クローンとの仮想面談を実行しました。その結果、リロググループをマッチングスコアが有意に高い先として導き出しました。
- リロググループにとって、売手企業ビジネスは未進出分野でしたが、既存事業とのクロスセルやアウトソーシングビジネスとしての成長が見込める点で、cloneM&Aの提案を高く評価しました。また、売手企業にとって、事業シナジーは勿論のこと、新規事業育成を掲げるリロググループの経営方針との親和性が高いことが決め手となり、マッチングが成立しました。
- その結果、売手企業はリロググループと極めて短期間でマッチングすることができ、約5カ月というスピード成約を実現するに至りました。

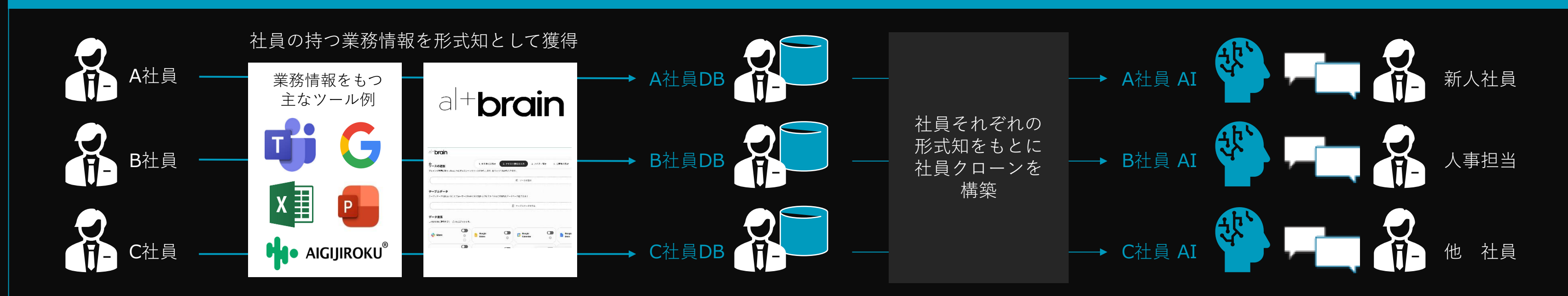
企業で行われているあらゆるコミュニケーションに関する情報を収集・蓄積することで暗黙知を形式知化し、それらを学習したデジタルクローンが稼働することを通じて労働生産を創出する仕組み

社員AI化及び社内集合知AIの構築に関して、営業活動における価値訴求及びデリバリーの型を構築済みで、月額M(メガ)単位の大型案件も受注済み。

獲得企業（一部抜粋）



社員のAI化



社内集合知AIの構築





Gijiroku.ai Bot

経済産業省および国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO）が推進する国内生成AIの開発力強化プロジェクト「GENIAC（Generative AI Accelerator Challenge）」（以下、GENIAC）の第2期に採択

ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業/ポスト5G情報通信システムの開発

LLM

労働力の補完を目的としたLLMの構築とInstruction Pre-trainingのためのデータ構築

- ・ 全体的なRAG性能の向上
- ・ 特に金融、保険、IR、社内規定、人材、法律におけるRAG性能向上に注力する
- ・ 労働力としての活用を意識したRAGのベンチマークの構築・公開
- ・ あらゆる指示に対する指示追従能力向上を目的としたInstruction Pre-trainingに向けた指示合成器のためのデータセット構築

実施内容

- ・ RAG性能に特化したLLM開発
- ・ RAG/一般性能の評価
- ・ モデル/ノウハウの公開
- ・ コミュニティへの参画
- ・ 事業化/実用化

開発される基盤モデル

RAG性能に特化したLLM

- ・ 100万件以上のRAG向け指示データの構築
- ・ ウェブデータから検索可能な仕組みの構築
- ・ 上記6ジャンルにおいて、GPT-4o相当のRAG性能を目標とする

上記モデルを指示生成器としても活用する



上記6ジャンルの
・ RAG性能の向上
・ 労働力の補完



社会実装の方法

自社ビジネスとして展開

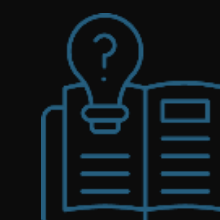
- ・ 自社サービスであるオルツブレイン、クローンマッチング、クローンM&Aなどへの組み込み
- ・ その他パートナー企業とのシステム開発に利用
- ・ APIの提供

成果物の公開

- ・ 評価データの公開
- ・ テックブログ、勉強会でのノウハウ公開



モデル



開発ノウハウ

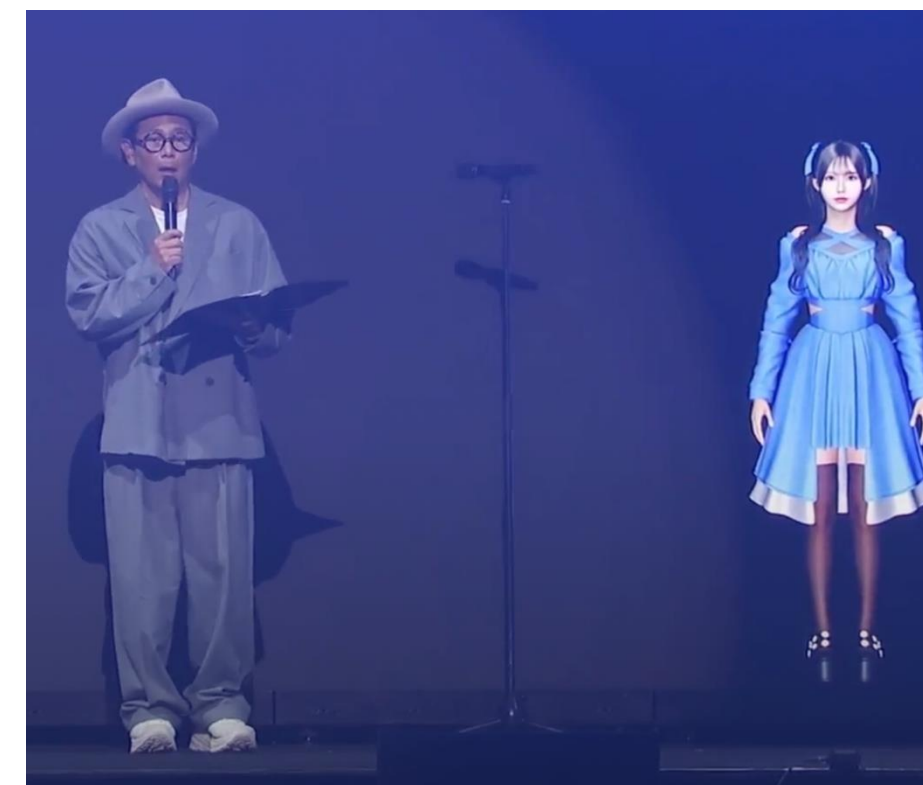
メディア・テレビ

クオラス 様

LHTM2 (独自LLM)

RAG (検索拡張生成)

アイドルのAIクローンを実施し、ステージでライブする



抱えていた課題

- リアルなアイドルは忙しく、コストが高い
- ライブできるイベント数は限られる
- 毎回異なるパフォーマンス品質
- 数十人のアイドルを同時にステージで公演させたい
- 公演の協調などが大変

期待している成果

- アイドルのAIクローンがリアルアイドルよりも面白い公演ができる
 - ※歌ったり、踊ったりするだけではなく、ステージMCとの雑談、盛り上がる
 - ※リアルタイムでMCとの対話
- 自然な対話で、リアルなアイドルと同じ話し方、発音
- 手、体などの合図は対話内容と適切に生成
- 複数人物のアイドルのクローンを実現

オルツへの期待

- P.A.Iでアイドルのクローンを作成
- ステージでライブして、リアルなアイドルの代わりに、盛り上げて、ファンとの交流が可能なクローン
- 自然な対話は、LHTM2で実現
- 話し方のスタイル、音声クローン、顔クローンの高い品質
- 7000ファンの前にライブを実施して、成功した

日本語専用LLMにおける超高速度推論PoC

半導体

SambaNova Systems 様



LHTM-OPT (独自LLM)

RAG (検索拡張生成)

日本語専用LLMの推論速度を 500 TPS (最大 796 TPS) に達成



抱えていた課題

- 英語のLLMで、高速度推論を実現した
- 日本語の生成精度が低い
- 特に実用アプリケーションの日本語RAG精度が低い
- 高精度かつ超高速度日本語RAG推論を実現したい
- 超高速度の日本語LLMがまだないため、超高速LLM推論チップが作成されたが、日本語に応用が難しい

期待している成果

- **世界一の日本語RAG精度かつ、世界最高速度の日本語専用LLM推論を実現**
 - ※軽量型LLMで500~800 TPS 推論速度実現
 - ※精度は、GPT-4oレベルを担保
- 様々な分野へのアプリケーションが可能
- 特にリアルタイム性が必要となるアプリケーションには、必須機能
- AIクロンの反応速度をリアルヒューマンと同じ速度に持っていける

オルツへの期待

- 日本語専用LLMをSambaNova Systemsさんの SN40LチップでLHTM-OPT2推論実行することで、軽量型日本語専用LLMとして、世界一のRAG精度、速度を達成
- AIクロンに応用して、実用レベルで、高速度推論を実施
 - 例) AIアイドルクロンなど
- LHMT-OPT2 の実用アプリケーションを様々な分野に展開

専門性の高い法務領域におけるAIチャットボットPoC

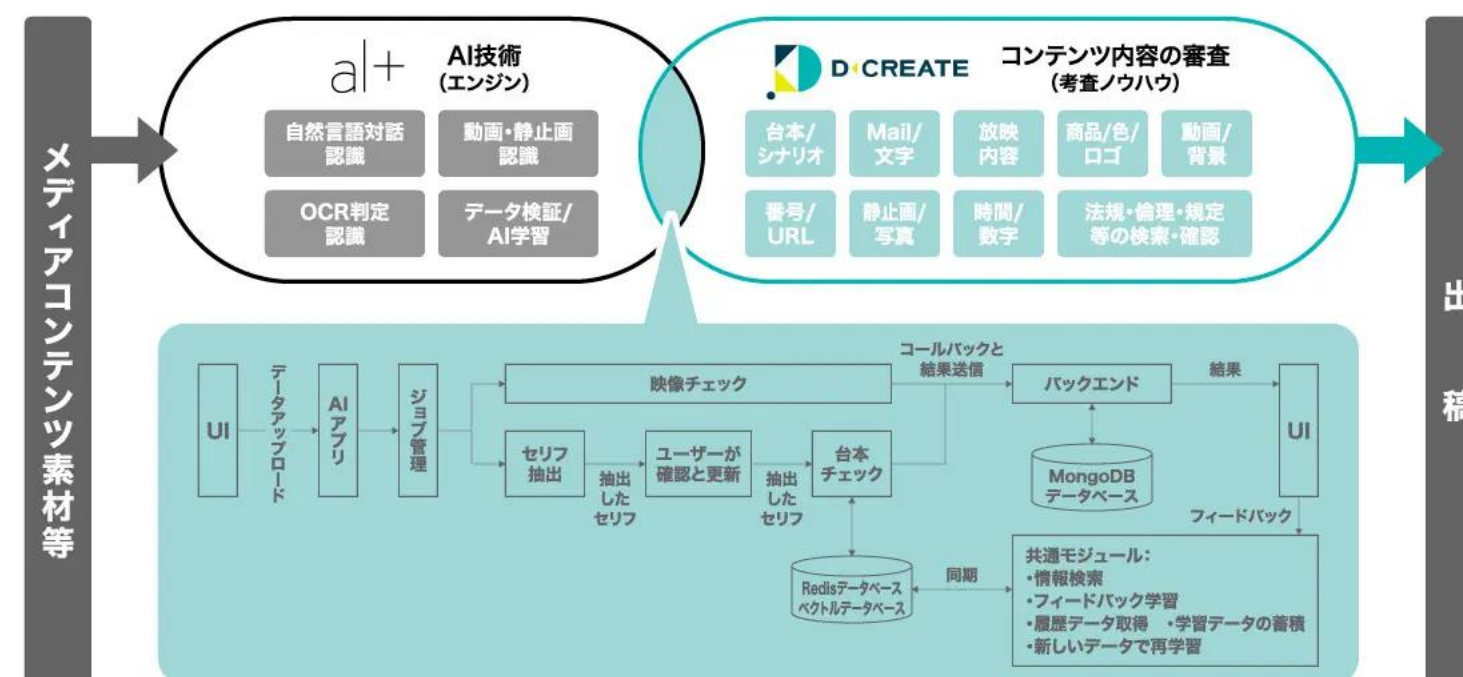


Direct marketing

株式会社ディー・クリエイト様



広告業界のDXを加速する次世代審査AIプラットフォーム
 広告審査業務の80%自動化を実現へ



抱えていた課題

- 審査業務の属人化が大きな問題。TVインフォマーシャルや広告制作における審査検証には、法規制、業界ガイドライン、社内規定など複数の観点からの専門知識が必要で、ベテラン担当者の経験に依存している。
- 映像、音声、テキストなど多岐にわたる要素を手でチェックする必要があり、1案件あたりの処理時間が長期化している。放送規制や各種ガイドラインとの照合作業に多くの時間を要し、クリエイティブな提案や戦略的な業務に時間を割けない状況にある。
- 審査検証の品質が担当者個人の経験値に大きく依存しており、組織としての品質保証体制が不十分。多数の案件を処理する必要がある中で、品質と処理速度のバランスを取ることに課題を抱えていた。

期待している成果

- 法規制やガイドラインに基づく一貫性のある判断基準を適用。AIが過去の判断事例を学習することで、より精度の高い審査が実現できる。これにより、新人からベテランまで、統一された品質基準での審査が可能になる。
- AIを活用してデータ検証や業務工程の80%以上を自動化することで、具体的な業務効率化効果を期待
 - ※ 1案件あたりの審査時間を従来の3分の1に短縮
 - ※ 人的ミスや見落としのリスクを最小限に抑制
 - ※ 24時間365日の自動チェック体制により、案件処理の所要時間を大幅に短縮

オルツへの期待

- 20年以上に及ぶディー・クリエイトの審査実務経験と体系化された広告制作ガイドラインを、オルツの最新AI技術で効果的に融合させることで、実務に即した高精度な審査AIシステムを実現
- AIビジネスパートナーとして、単なるツール提供に留まらず、クライアントとの深い対話を通じて事業課題を理解し、継続的な技術革新と運用支援により、真の業務改革を実現する戦略的パートナーとしての役割
- 人間の専門的判断とAIによる効率化を最適にバランスさせた次世代の審査プラットフォームを提供することで、広告業界全体のデジタルトランスフォーメーションを牽引し、新たな価値創造を実現するイノベーションパートナーとしての期待

Asclone - 個性化した複数AI人格に相談

定性調査

株式会社ビデオリサーチ様



XXX

XXXXX

生成AIを活用した定性調査ツール「Asclone」を大幅リニューアル
本物の人のような個性を持つ複数の“AI相談相手”にインタビューが可能に



概要

- 株式会社ビデオリサーチと共同開発したデジタルクローンを使用したアンケートシステムで、オルツのパーソナルAI技術を活用し、個性を持ったデジタル上の「人」に対して自由にインタビューができるサービス
- 常の対人のアンケートとは異なり、対デジタルクローンのアンケートのため、時間や場所、質問量の制限なく、利用者のペースで使用できることに加え、デジタルクローンのペルソナを適宜変更することも可能

『リサーチ4.0』の時代へ

- リサーチ1.0 = 人的対面調査
- リサーチ2.0 = PCインターネット調査
- リサーチ3.0 = ログ、センシングデータ
- リサーチ4.0 = AI技術を活用した次世代のマーケティングリサーチ手法

オルツへの期待

- 定性調査は、定量的に測定することが難しい生活者の考えや心情を深掘りするのに有効な手段です。しかし、プライバシーに関わる質問や大量の質問には向かず、詳細な条件だと対象者のリクルートも難しくなる上、対象者が多くなるほど調査にかかる時間とコストが大きくなります。それらの課題を解決するアプローチとして開発された『Asclone (アスクロン)』は、ユーザー自身が設定した条件で作られた“AI相談相手”に意見が聞ける定性調査ツールです。

第三四半期業績

技術及びプロダクト群

新製品alt Talk

Contents

会社概要

事業戦略

超高速音声対話システム

反応速度0.53秒

「オルツトーク」サービスご案内
株式会社オルツ

al+Talk とは?

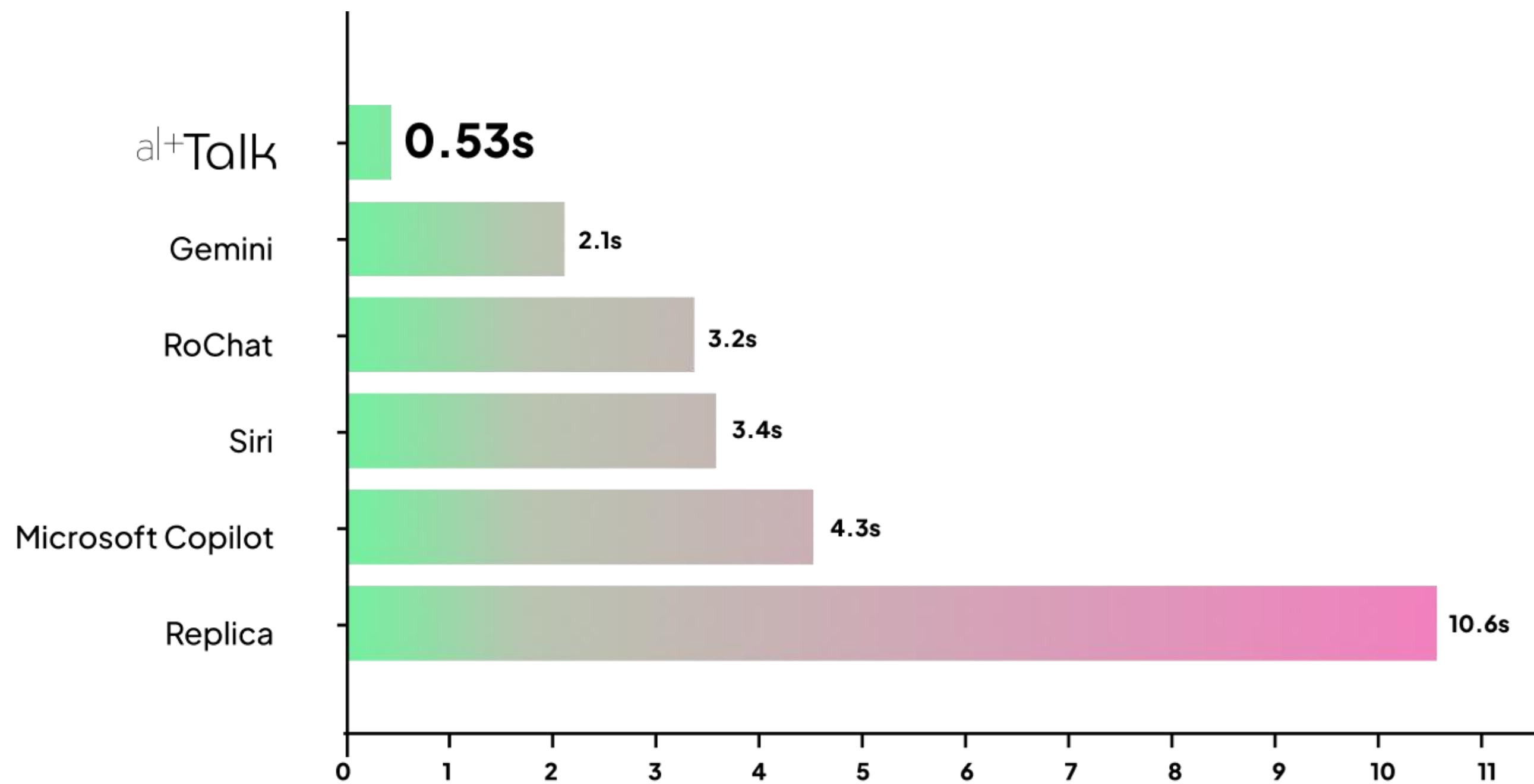
alTalkは、**自社システムに簡単に高度な会話AIを導入できる
組み込み型のAI会話エンジン**です。

人間と同じ速度感での自然な会話ができ、相手の感情を理解し、
自分の感情を表現し、複雑性の高い会話や業務を自由度高く遂行できる
会話システムを実現できます。

業務効率化や自社サービスとしての提供など
幅広い利用用途でご活用いただけます。

音声対話サービスとの応答速度比較

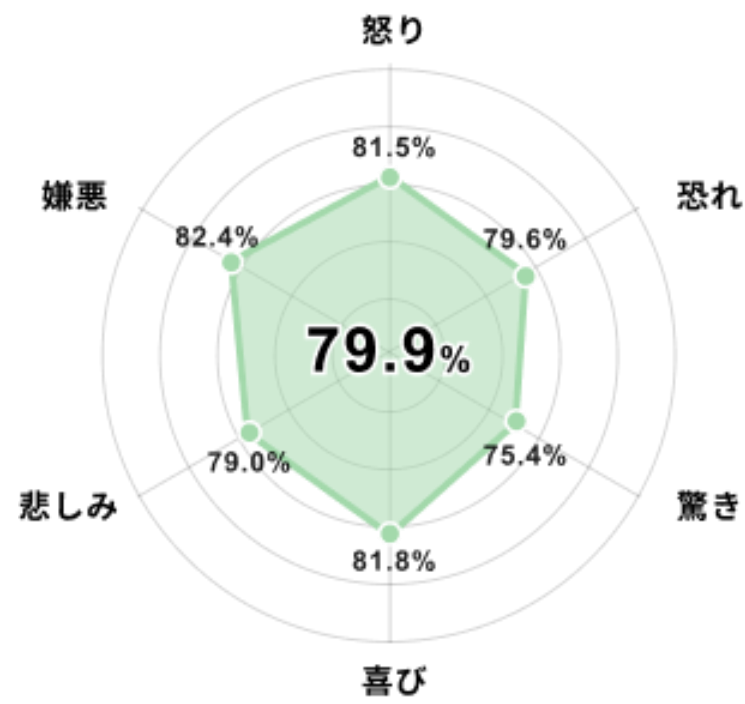
処理速度(秒)



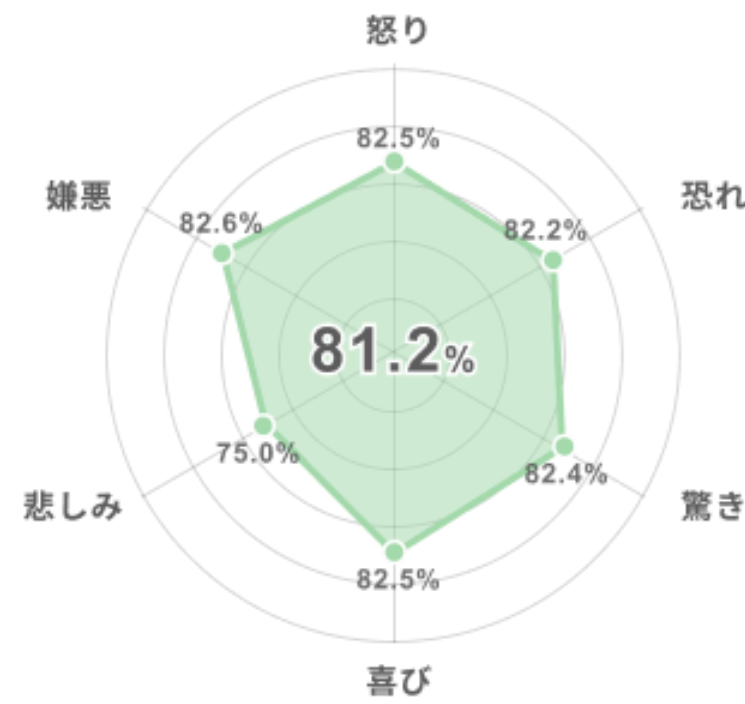
感情理解度の比較

手法 × 感情別

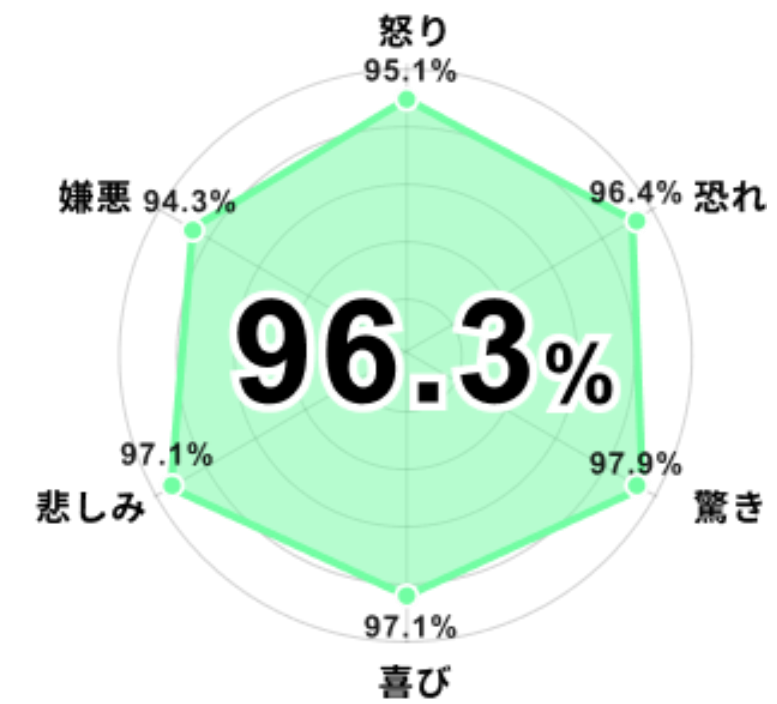
OpenAI GPT



Gemini



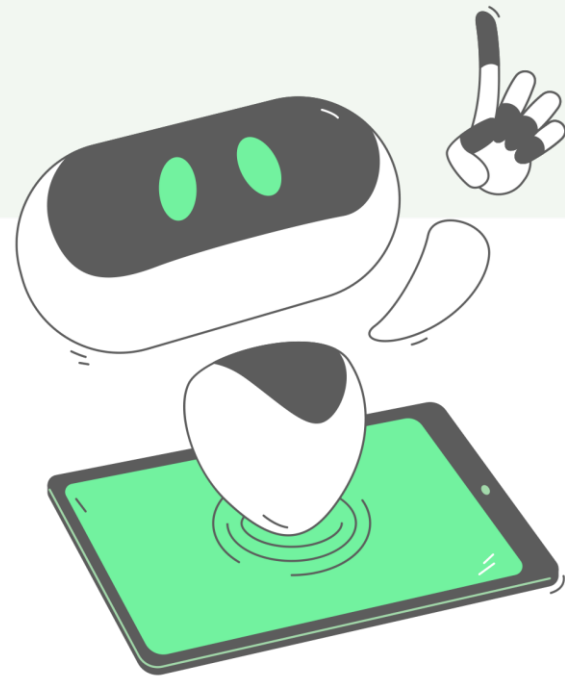
al+Talk



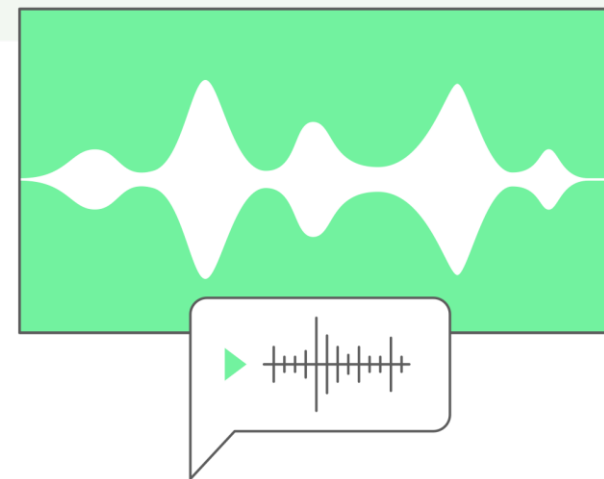
- ※ テストデータ: 1200件の音声 × 感情データ
- ※ テストデータの音声を元に、プルチック・モデルにおける8つの基本感情を各手法で推定 (ただし音声からの推測が難しい「信頼」と「予測」を除く)
- ※ テストデータ上でその音声に対応している感情と、各推定結果を比較した時の平均誤差を算出
- ※ 100% - 平均誤差 を感情理解度と定義

ユースケース

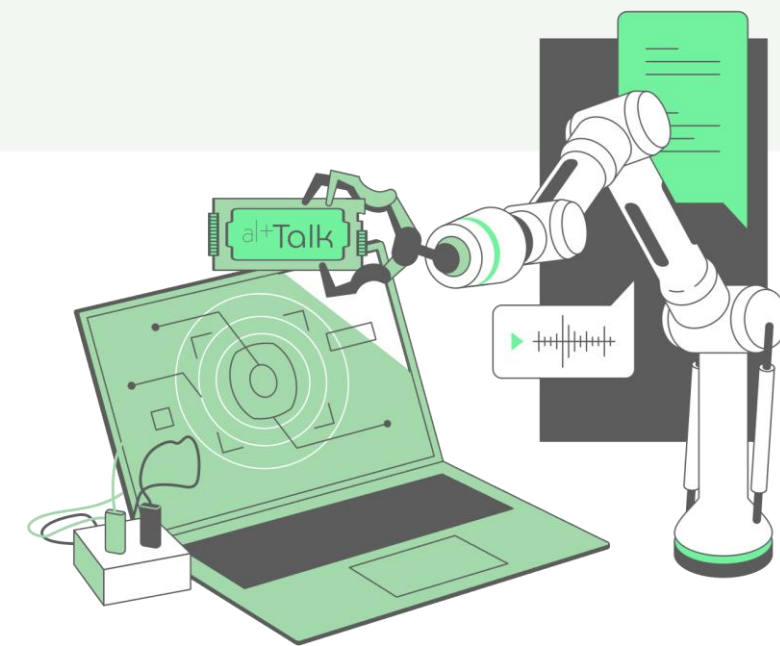
今まで人がやっていたあらゆる業務を同じレベルで代行することができます



チャットボットへの組み込み



コールセンター代行



アプリやソフトウェアへの組み込み

al+Talk を体験

サンプルで実際にaltTalkで作られたAIとの音声会話を体験することができます



ECサービスカスタマーサポート

<https://alttalk.ai/?sample=1>



altTalkカスタマーサポート

<https://alttalk.ai/?sample=2>



英語の先生

<https://alttalk.ai/?sample=3>

al+Talk 構成技術

さまざまな最新AI技術を組み合わせて構築されています



導入ご相談の流れ

お問い合わせいただいた後、alTalkをご活用いただくまでの流れです



資料請求

3日



ミーティング

5日



導入手続き

20日



導入サポート

10日



導入完了

お問合せ

al+Talk についてのお問い合わせ

AI Solutions事業部 までお気軽にご連絡下さい。

Email: ai-solutions@alt.ai

会社名	株式会社オルツ
代表取締役	米倉千貴
所在地	〒106-0032 東京都港区六本木7-15-7 新六本木ビル (SENQ六本木 402)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ P.A.I. (パーソナル人工知能) の研究開発 ・ AI技術を活用したソリューション提供 ・ AIコンサルティング・DX推進支援
選出	EY Innovative Startup 2017 / ACL 2017 / COLING2018 J-Startup / ILS TOP100 Startups
会社HP	https://alt.ai



Mission / 使命

自由の価値を向上させるテクノロジー、
P.A.I.を世界に普及させる



Vision / 構想

Lavoro to Opera

労役をなくし想像的な仕事にのみ集中できる世界を実現

私たちの存在を永久にする



Value / 価値

超創造的であれ

恐れ知らずであれ

自分の価値を最大化せよ

al+Talk

<https://alttalk.ai>

第三四半期業績

技術及びプロダクト群

新製品alt Talk

会社概要

事業戦略

Contents

基本情報

会社名	株式会社オルツ
設立	2014年11月
代表者	米倉 千貴
資本金	2,298百万円（2024年11月13日現在）
本社所在地	東京都港区六本木7-15-7 新六本木ビル （SENQ六本木 402）
拠点	日本、米国
従業員数	129名（業務委託含む）（正社員23名）（2024年9月30日時点）
事業内容	「P.A.I.」（パーソナル人工知能）の研究開発。 また、その過程から生まれた要素技術やFoundation Modelを活用したAI Products事業やAI Solutions事業の展開

当社のグローバルネットワーク

グローバルなフルリモート体制の下で運営しているため、世界中にエンジニアが存在



経験豊富な経営陣と高い専門性を有するアカデミア



各専門領域のプロフェッショナルである経営陣と高い専門性を有するアカデミアチームで構成

コアメンバー				アカデミア			
	米倉 千貴 創業者CEO/代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> マネジメント Creation Expert 	Serial entrepreneur MEDIA DO		乾 健太郎 Head of AI	<ul style="list-style-type: none"> AI Expert LLM Expert 	Tohoku Univ. RIKEN AIP.
	日置 友輔 CFO/取締役	<ul style="list-style-type: none"> マネジメント Finance/BizDev Expert 	Morgan Stanley Kyoto Univ. Master of Applied Science		Danushka Bollegala CSO	<ul style="list-style-type: none"> 研究者 AI Expert 	Univ. of Liverpool Tokyo Univ.
	西村 祥一 CTO	<ul style="list-style-type: none"> アーキテクチャ Web3 Expert 	ORACLE Ethereum		松原 仁 Technical Advisor	<ul style="list-style-type: none"> 研究者 AI Expert 	Tokyo Univ. Former President Japanese Society for AI
	保坂 文哉 CRO	<ul style="list-style-type: none"> マネジメント Sales Expert 	New Relic STANDARD		橋田 浩一 Technical Advisor	<ul style="list-style-type: none"> 研究者 AI Expert 	Tokyo Univ. Institute of Physical and Chemical Research
	小村 淳己 AI DX Consultant Partner	<ul style="list-style-type: none"> コンサルティング BizDev/AI Expert 	Deloitte NRI	参考指標			
	上田 智子 AI Lead Engineer	<ul style="list-style-type: none"> エンジニアリング AI Expert 	CyberAgent Applied Science	海外国内（東京以外）比率			
	Nguyen Tuan Duc AI Lead Engineer	<ul style="list-style-type: none"> エンジニアリング AI/LLM Expert 	Tokyo Univ. Computer Science & Engineering	業務委託比率（2024年6月稼働状況）			
	吉村 歩 Product Dev Head	<ul style="list-style-type: none"> プロダクト開発 エンジニアリング 	Tokyo Univ. Math & Physics	■ 東京 ■ 国内（東京以外） ■ 海外			
				■ 140時間超 ■ 100時間超140時間未満 ■ 60時間超100時間未満 ■ 40時間超60時間未満 ■ 40時間未満			

当社の成長を支援するグローバルの戦略的パートナー



“P.A.I.”という思想、その実現に向けた技術やプロダクトに対する評価により、グローバルに事業展開する企業と戦略的パートナーシップによるネットワークを構築

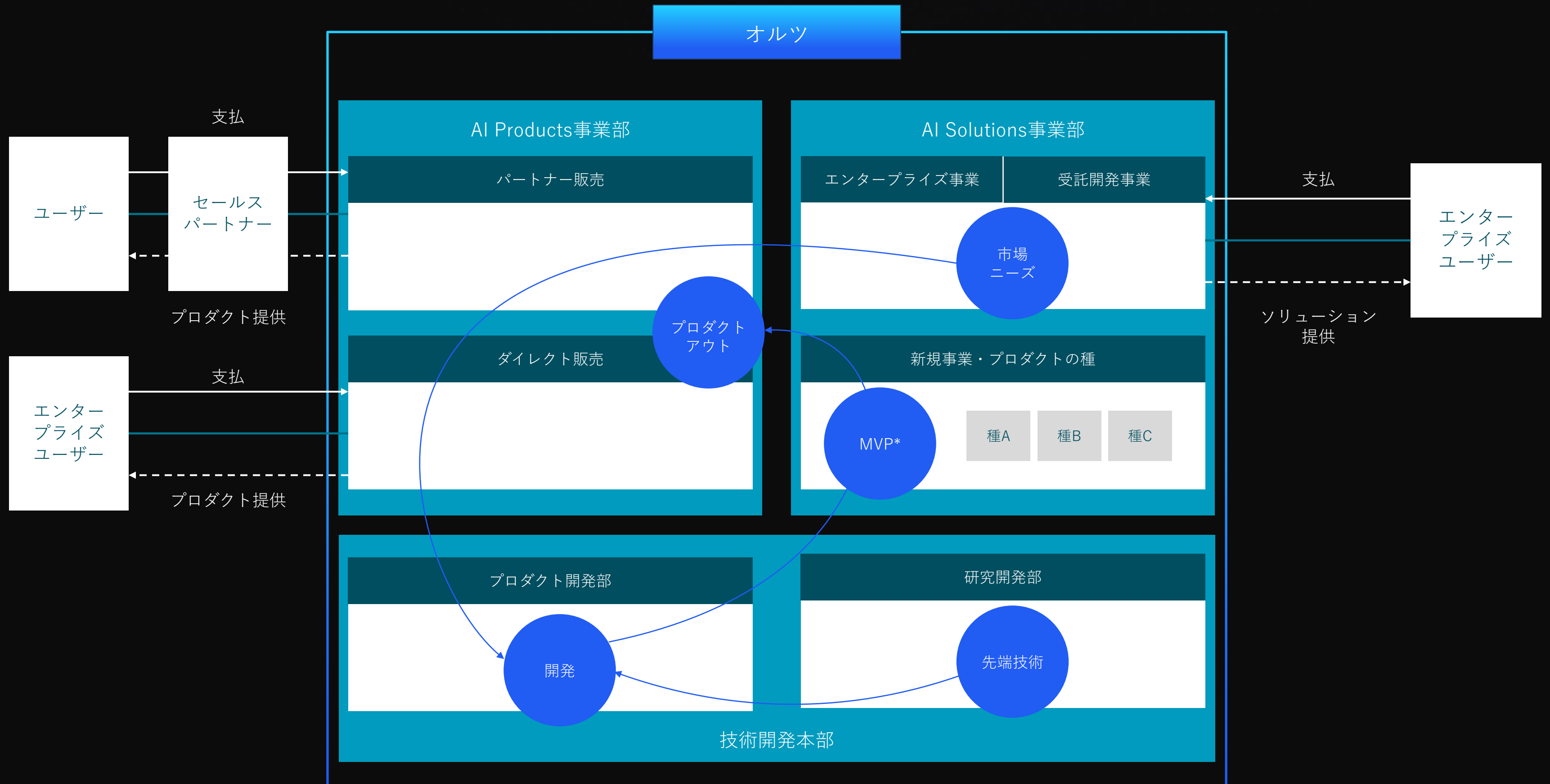
資本業務連携 (生成AI領域全般)	業務連携 (GPU領域)	業務連携 (生成AI領域)	業務連携 (生成AI領域)	業務連携 (生成AI領域)
 <ul style="list-style-type: none"> • オルツの有するLLM（大規模言語モデル）や音声認識・音声合成を含む幅広いAI技術と、キーエンスが培ってきた生産性向上のためのノウハウやデータに基づく合理的な企業運営の知見を合わせ、新たなソリューションを提供することを旨としたパートナーシップを開始 	 <ul style="list-style-type: none"> • NVIDIAが展開するAIスタートアップ支援プログラム「NVIDIA Inception Program」のパートナー企業に認定 • 世界的GPUプロバイダーであるNVIDIAとの連携を強化することで、自社で運用する大規模言語モデル（LLM）の開発やそれを基盤とするプロダクト開発に加え、すでにサービス化している分散演算基盤「EMETH」やGPUのホスティングサービスである「EMETH GPU POOL」などのソリューション強化する 	 <ul style="list-style-type: none"> • オルツのAIプロダクト群とデータブリックスが持つデータ構造化のノウハウおよびデータ・インテリジェンス・プラットフォームという双方の強みを活用し、AI/DXソリューションを日本企業へ提供 	 <ul style="list-style-type: none"> • 生成AIの活用を促進し、クライアントの課題を解決 • 初期段階では国内の金融機関を対象とし、以下の3つの主要テーマに基づいてソリューションを提供： <ol style="list-style-type: none"> 1. AIクローンの利用を通じて従業員の生成AIリテラシーを向上させること 2. 各企業における生成AIの実装を促進するために個別の大規模言語モデル（LLM）を開発すること 3. 生成AIを活用した新しい顧客体験を創造すること 	 <ul style="list-style-type: none"> • 世界有数の半導体メーカーであるSambaNovaと連携することで、AIの学習能力と推論能力を磨き上げ、速度、精度、コストパフォーマンスなどがさらに向上した製品やサービス開発・提供に取り組む • Communication Intelligence「AI GIJROKU」ならびにノーコード生成AIプラットフォーム「altBRAIN」の機能を強化するとともに、両社のグローバルマーケティング活動を強化

これまでの当社の歩み

創業来継続した研究開発にて技術を蓄積。2021年以降はCommunication Intelligence “AI GIJIROKU”がプロダクトとして本格的な収益貢献するフェーズに



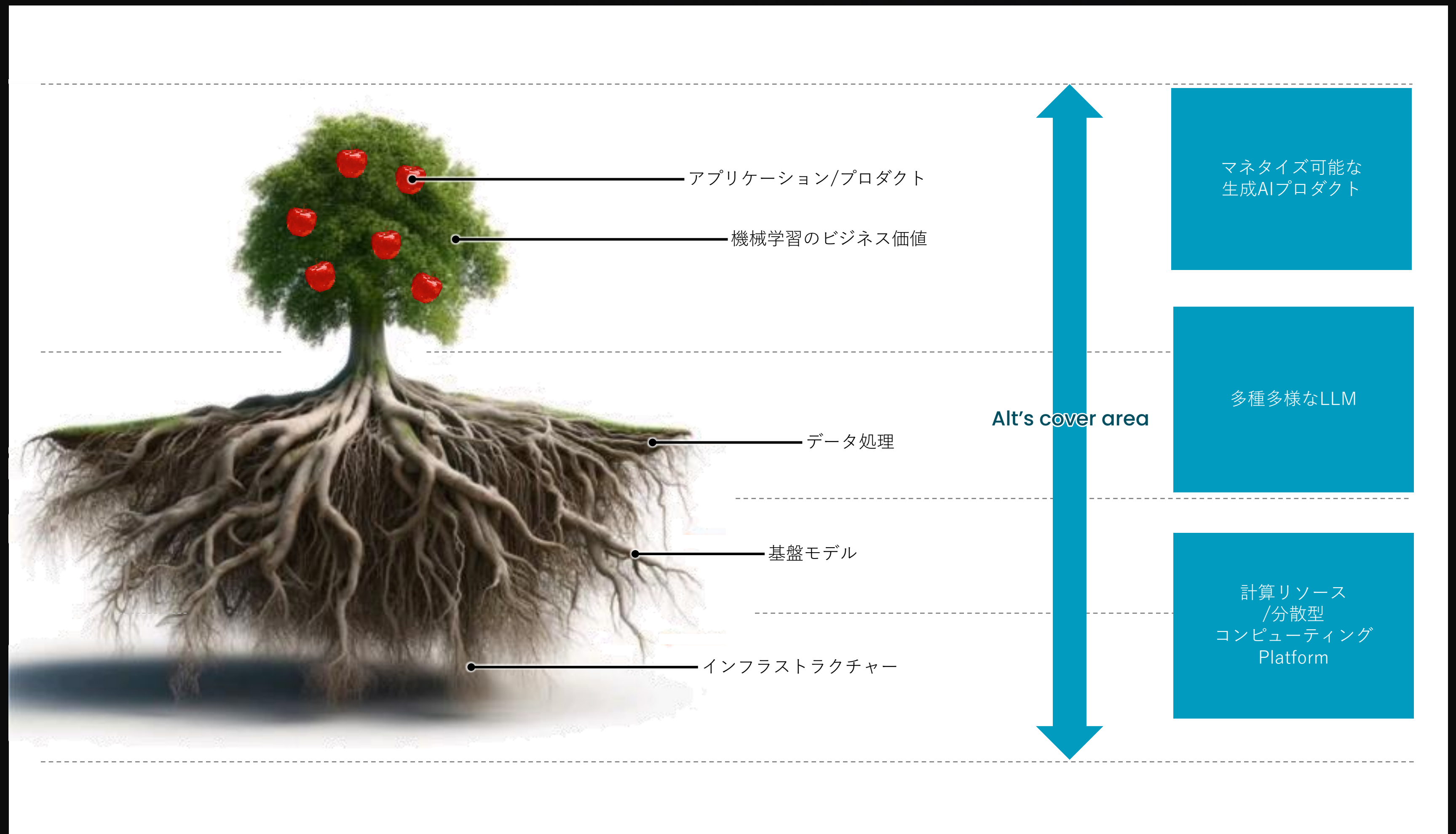
AI Solutions事業部にて市場からニーズを拾い上げAIプロダクトで開発を実施。相互に事業部が作用する組織構造



※minimum viable product : 実用上、最小限の機能のみを実装した製品。顧客に試用してもらい、反応や要望に応じて新機能の追加や見直しを図り、より完成度を高めていく実用最小限の製品

生成AIのバリューチェーンにおける当社のカバー

生成AIの一種であるP.A.I.のバリューチェーンにおいて、当社は必要な技術要素を一気通貫で自社開発し保有している



自社開発のコア技術



多岐に渡るAIの要素技術、基盤モデル、インフラを設計し自社技術として保有している

要素技術

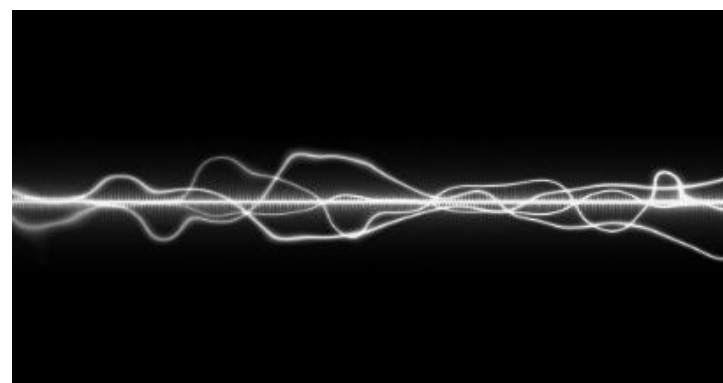
自然言語処理



深層学習



音声認識/処理/変換



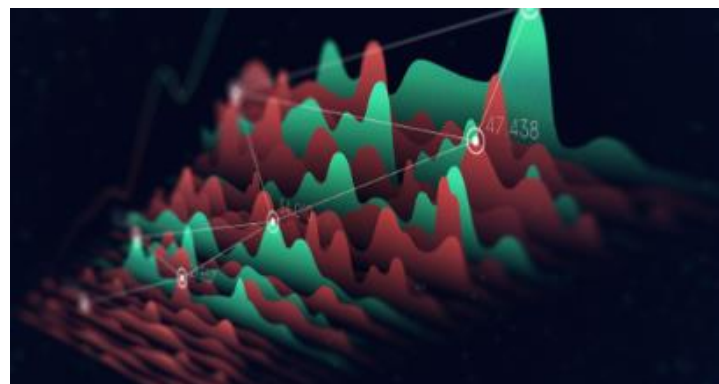
推論・探索



画像処理/認識



データマイニング



Foundation Model

独自LLM「LHTM-2」



独自LLM「LHTM」



軽量型LLM「LHTM-OPT」



インフラストラクチャー

分散コンピューティングプロジェクト「EMETH」



分散型個人データストレージ・プラットフォーム「al+ stack」



LLMのラインナップ

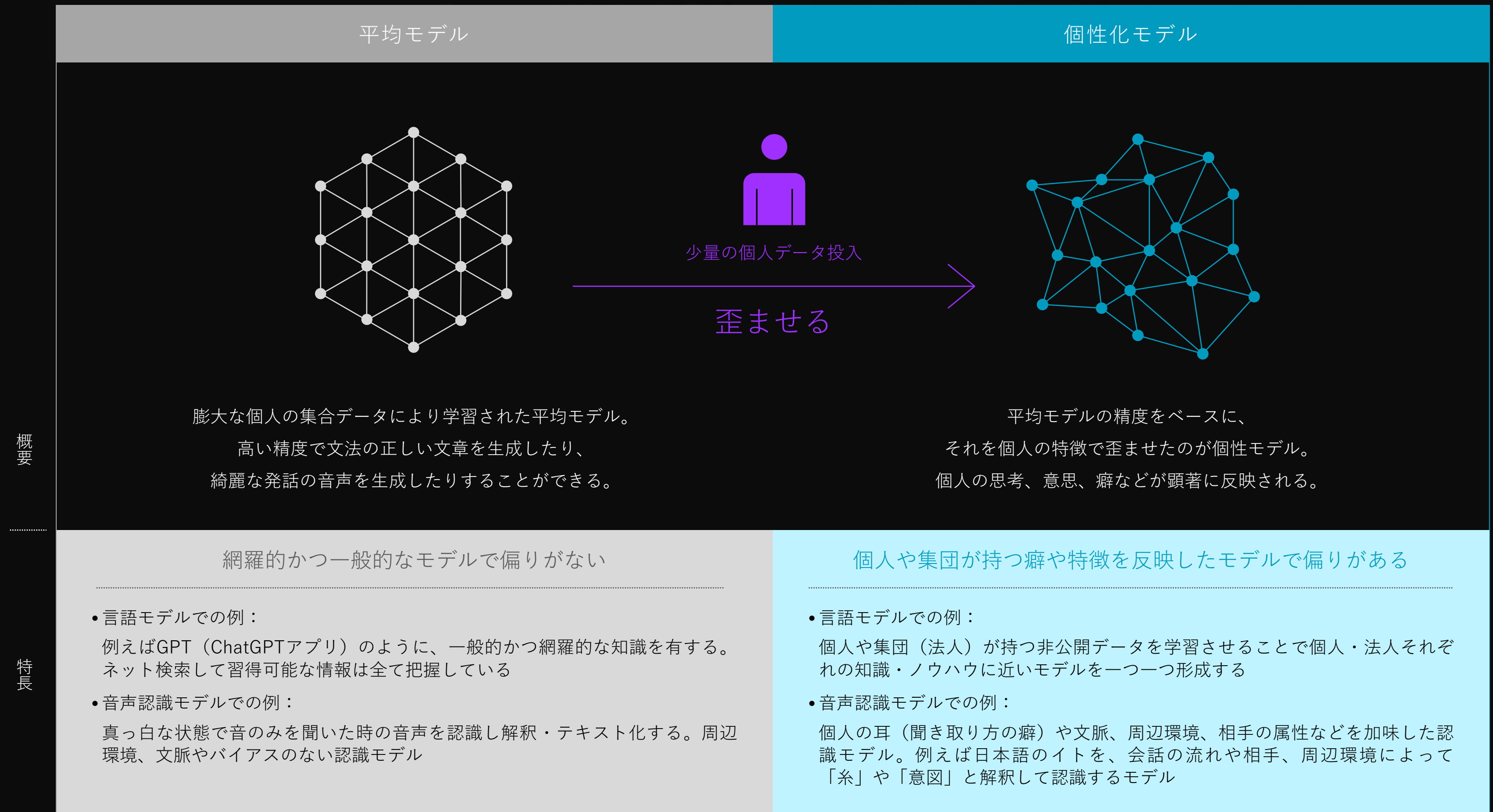
個別設計に特化し、個々のマインドや思考の再現を強化

		提供開始	パラメータ数	特徴
LLM		2019	- (closed)	<ul style="list-style-type: none"> 最初のプロトタイプシリーズ 短文の理解と応答が可能 P.A.I.カスタマイズに使用
		2023	大規模	<ul style="list-style-type: none"> 長文の理解が可能 少数のショット学習*1をサポート 当社の製品やサービス (AI GIJIROKUなど) で利用
		開発中	目標値 1,000B+	<ul style="list-style-type: none"> (目標) マルチモーダル*2 (目標) より強固で複雑な理解 (目標) 長時間の会話の一貫性
LLM (軽量版)		2023	小規模	<ul style="list-style-type: none"> トップレベルのLLM評価のベンチマークスコア (JGLUE、Rakuda) 小メモリ環境での実行 P.A.I.カスタマイズに適している
		開発中	小規模	<ul style="list-style-type: none"> (目標) トップレベルのRAG*3ベンチマークスコア (目標) 実用的な高速推論 (35+tps)

*1 新しいクラス (分類) やタスクを訓練データから事前に学習していなくても、推論時にその未知のクラスやタスクについての何らかの補助情報 (説明テキストや属性情報、クラス間の類似性など) を訓練済みAIモデルに与えることで、柔軟に適切な分類や予測を行うための学習方法
 *2 音声、画像、動画、センサ情報など複数の異なる情報源から情報を収集し、統合して処理する性能 *3 Retrieval-Augmented Generation: LLMによるテキスト生成に、外部情報の検索を組み合わせることで回答精度を向上させる技術

コア技術：パーソナライゼーション

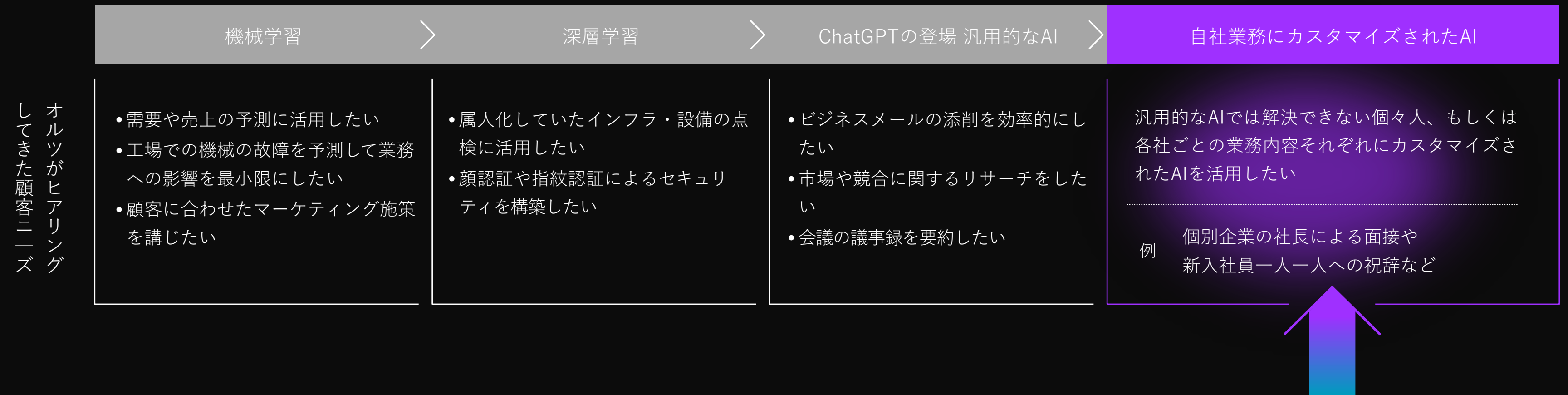
少量の“特徴”データを用いて平均モデルを歪め構築することで、個性化モデルを効率的に開発する技術を確立



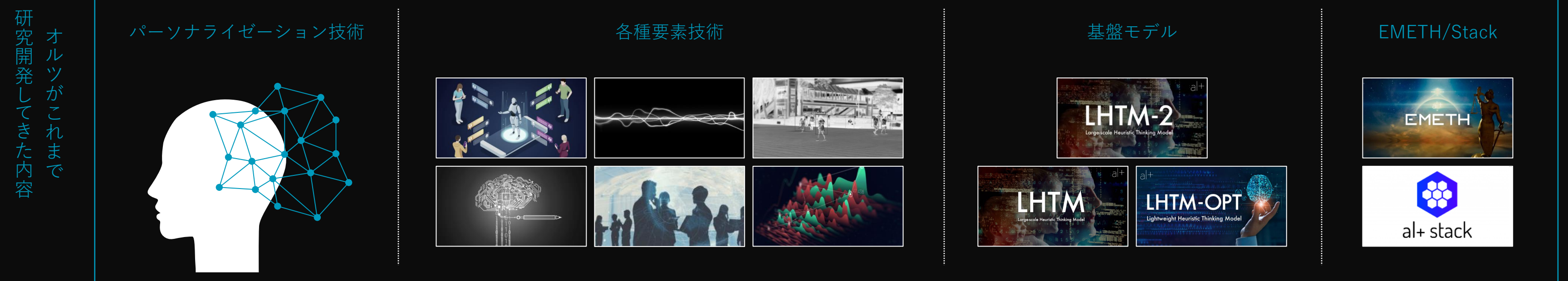
顧客ニーズの変遷における当社技術の応用

顧客ニーズを丹念に拾い上げ、将来を見据えて当社が設立以来蓄積させてきたパーソナライゼーション技術は、今まさに企業が直面しているAIの活用ニーズにマッチし、一部企業とはPoCの契約を締結

顧客ニーズのトレンド



パーソナライズ化されたAI実現のための様々な要素技術・基盤モデル・プロダクトの開発



第三四半期業績

技術及びプロダクト群

新製品alt Talk

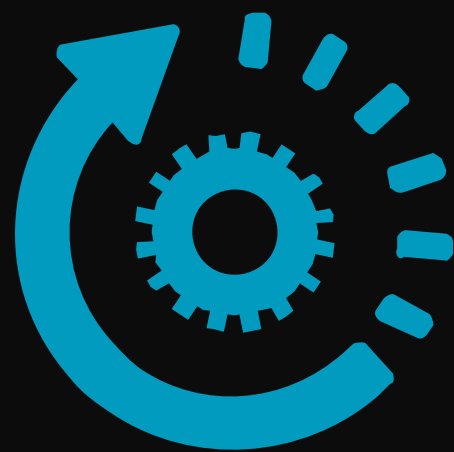
事業戦略

市場環境

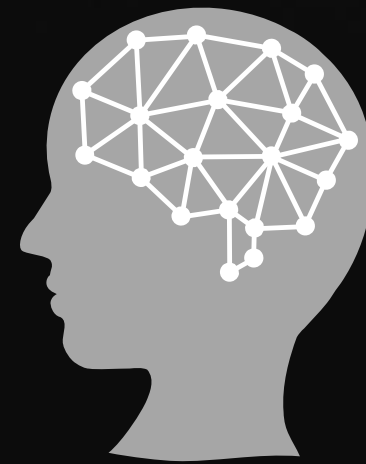
Contents

オルツの優位性

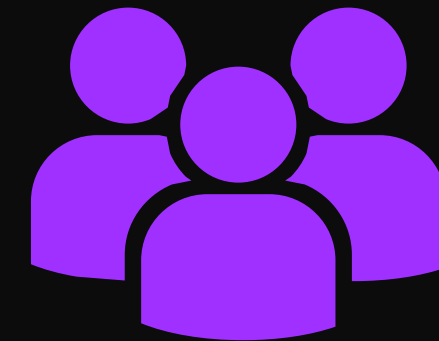
10年間、100億円を調達しながら築き上げてきた技術・事業・人財の各MOATが存在する



技術



事業



人財



豊富な基礎技術とアカデミア連携

国内外の卓越した研究者・大学研究機関とのネットワークによる最先端基礎技術・応用技術の蓄積実績



P.A.I.クロンの先行者利益 (パーソナルAI=オルツ)

P.A.I.の商標は当社が2014年に取得しており、そこからプロダクトとしての提供をいち早く実現し、市場におけるP.A.I.クロン提供実績を有するパイオニアとしてのポジションの確立



壮大なビジョンへの共感

P.A.I.の実現というビジョン、及びGAFAMのようなビッグテックの掲げる絶対的なAIとは異なるアプローチ（個人に寄り添うAI）への共感（このビジョンに共感する優秀な人材を総取りできる）



パーソナライゼーション技術の 先行者利益かつ技術ノウハウ

パーソナライゼーション技術のプロダクト応用、フィードバック、改善のフローを長年研究開発してきたノウハウ



生成AIユースケース提供への グローバル企業の関心の高まり

生成AIを実装し、マネタイズしている希少なAIベンチャーとしての、グローバルプレイヤーからの注目

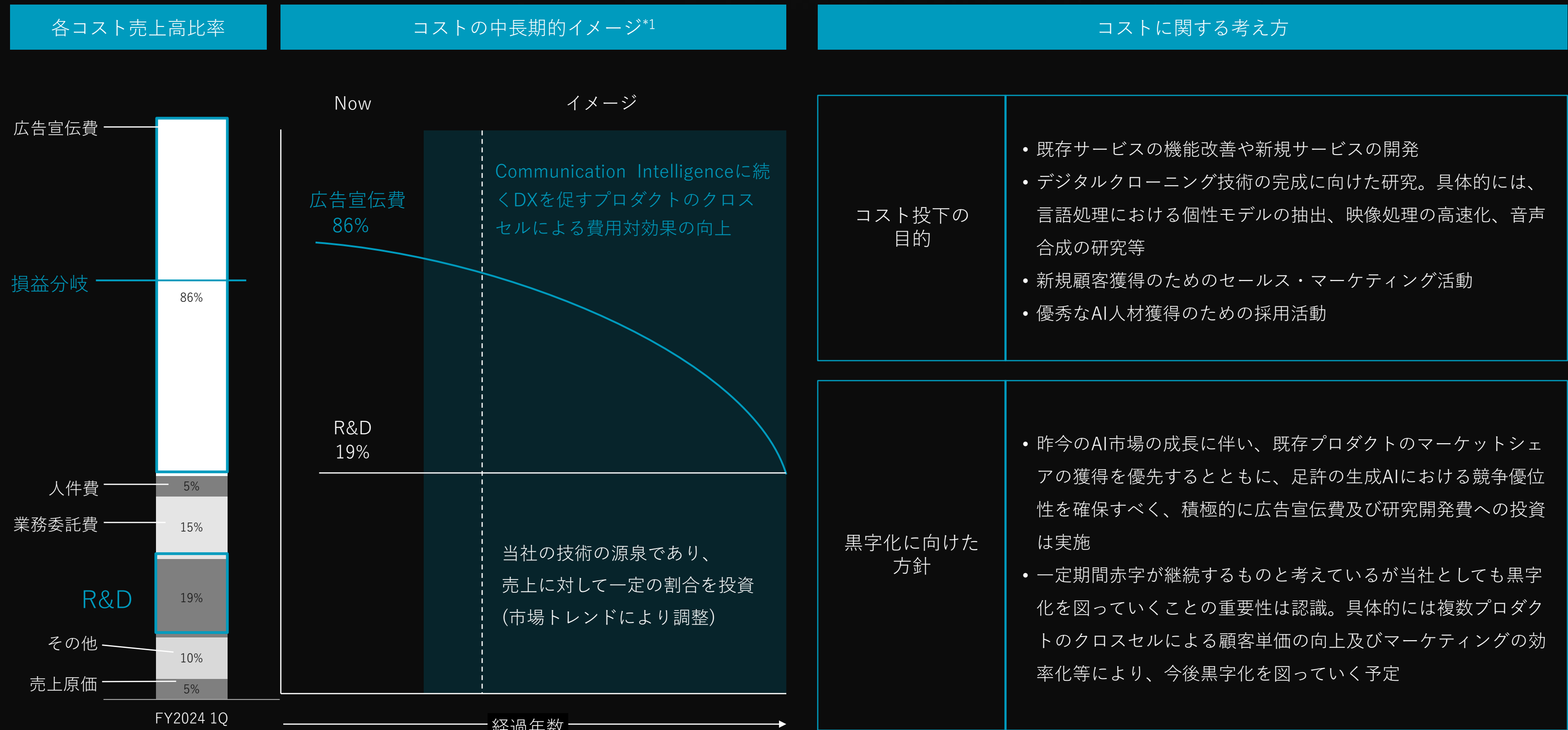


グローバルで自由な環境

いち早くグローバルフルリモートでの働き方を開放し、価値の高い人財が自由に創造できる働き方を実現

コスト構造と費用の投下方針

AI市場のマーケットシェア確保に向けた競争力先行投資型企业ではあるが、コストコントロールを意識した考えを具備



*1 主要な費用の傾向及び方針を示すイメージ図であり、当社の将来の費用トレンドを保証するものではありません

自社及びパートナーを通じて効率よくプロダクトとソリューションを提供

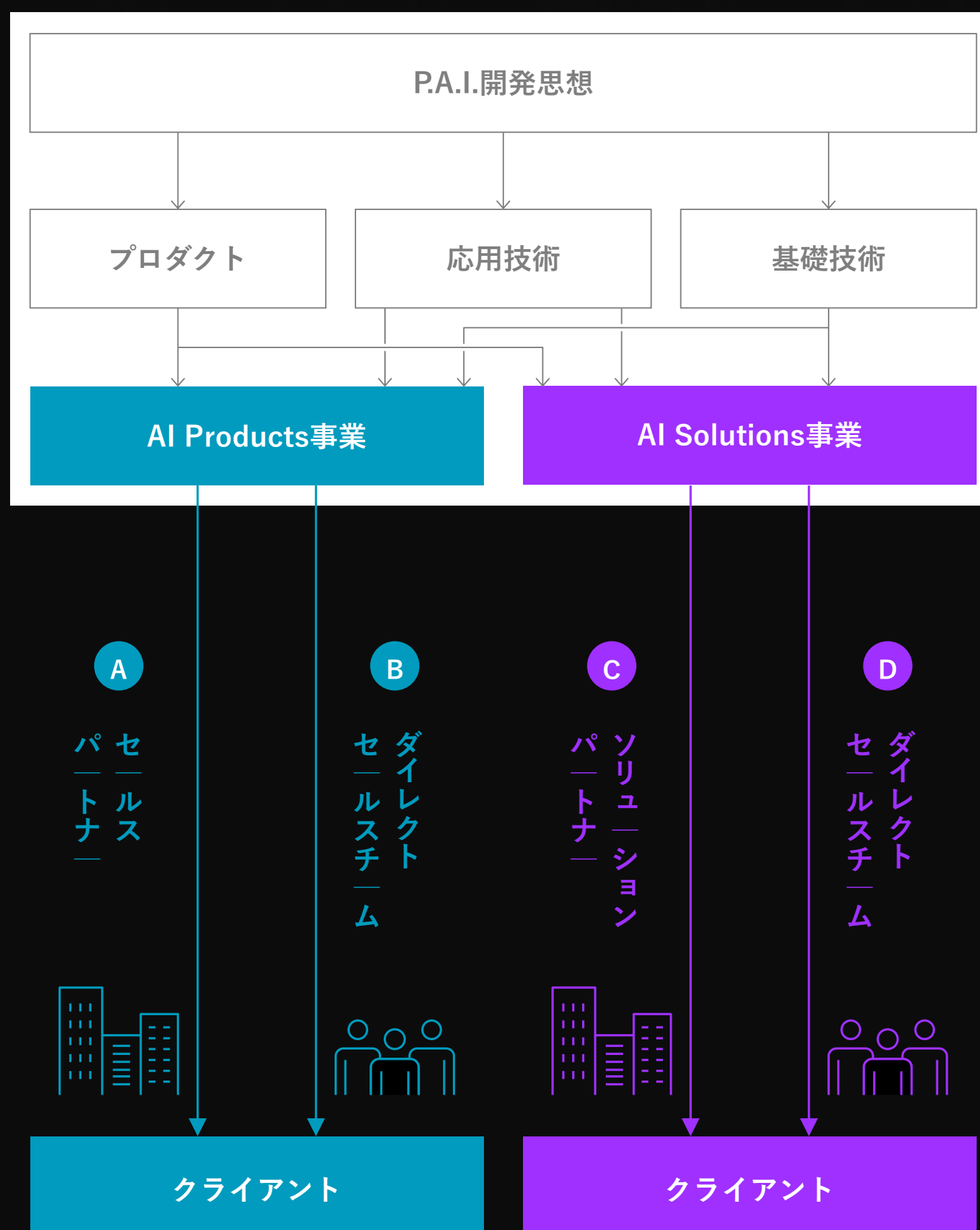
戦略の内容

A

プロダクトを拡販するセールspartner。現時点でも大手企業等で一部存在。今後は販売力に特化した組織で、既に販売網や販売リソースを有するパートナーを適切なインセンティブで獲得し、オルツAIプロダクトを拡販してもらう。メインプロダクトであるAI GIJIROKUについては適切な広告宣伝費を投下し、リード獲得はオルツがしつつ、それ以外は基本的に上記パートナーが担う。

B

プロダクトのダイレクトセールsteam。既に組織構築して現在には特にクライアントのCxOや上層向けのアプローチをメイン担当。今後はAI Solutions事業とも連携しながらプロダクトの大型展開（例えばAI GIJIROKUのカスタマイズ需要等）で企業のAI/DX化を支援する。



戦略の内容

C

ソリューションのパートナー。現在も一定数存在。今後は引き続き基礎技術、応用技術を理解しながら、オルツAIソリューションチームと連携しつつ、自身の販売網を活用して、オルツテクノロジーの提供を推進。

D

ソリューションのダイレクトセールsteam。現時点で未整備だが、企業のAI化、効率化の戦略設計から個別開発、カスタマイズ開発などを担当予定。今後チームアップし、オルツのコア技術を理解し顧客課題を解決、またはオルツビジョンとの協奏を推進する。

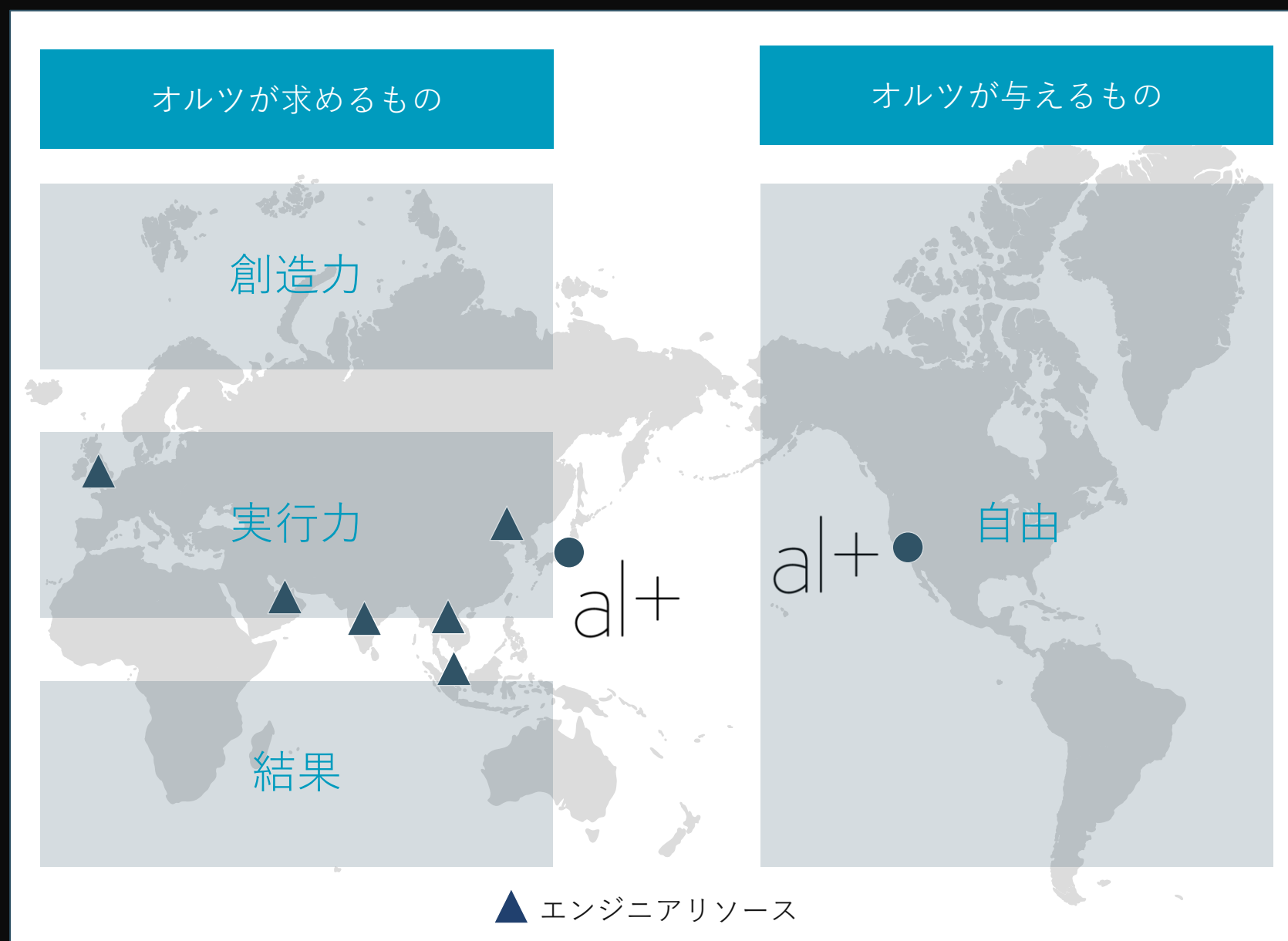
厳格な選考基準とモニタリングにより自由で価値の高い働き方の実現を提供する戦略を継続し、競争力ある人材を確保する

P.A.I.

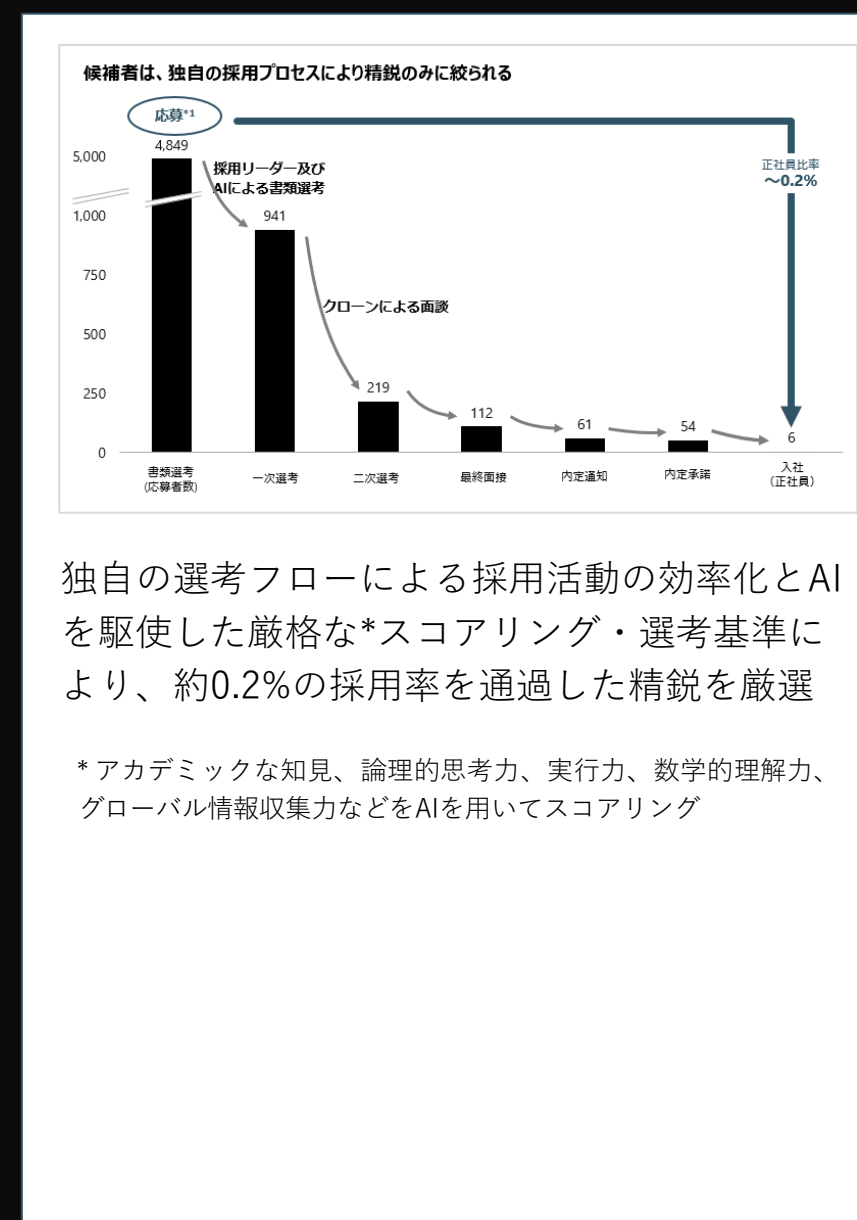
定期的なモニタリングにより優秀な人材が結果を出す環境を継続して提供

独自の採用フローによる厳選した精鋭採用

P.A.I. 実現



厳しい
選考基準

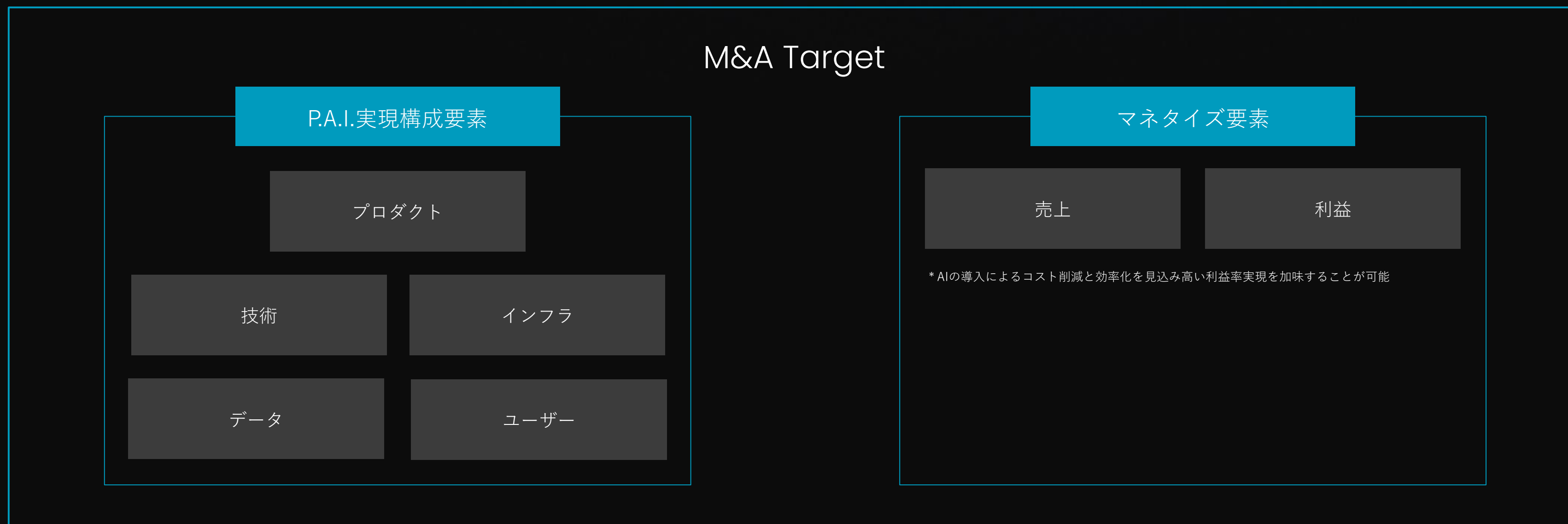


モニタリングサイクル

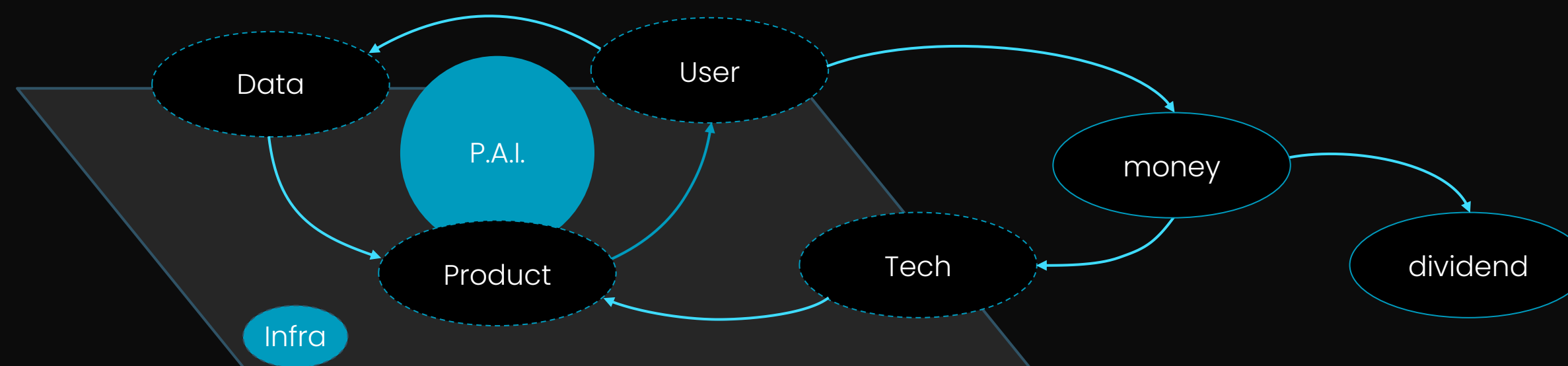
創造力・実行力・結果の定期的なモニタリングサイクル*を行うことで、優秀な人材がプロの仕事をするしやすい環境を維持

*創造力を推し量る独自の定量指標を構築し運用。組織のスピードに合わせた新陳代謝を本評価指標を基に実行するサイクルを実装

P.A.I.開発を加速させるために、独自データや企業や幅広い顧客層を有する企業ターゲットを定め今後検討していく



各要素をM&Aにより補強することでP.A.I.の早期実現を目指す



(参考) M&A実績

2023年のM&A事例では、売上・利益・データの観点で人力文字起こし事業を買収しHuman-in-loopを実現

M&Aの概要



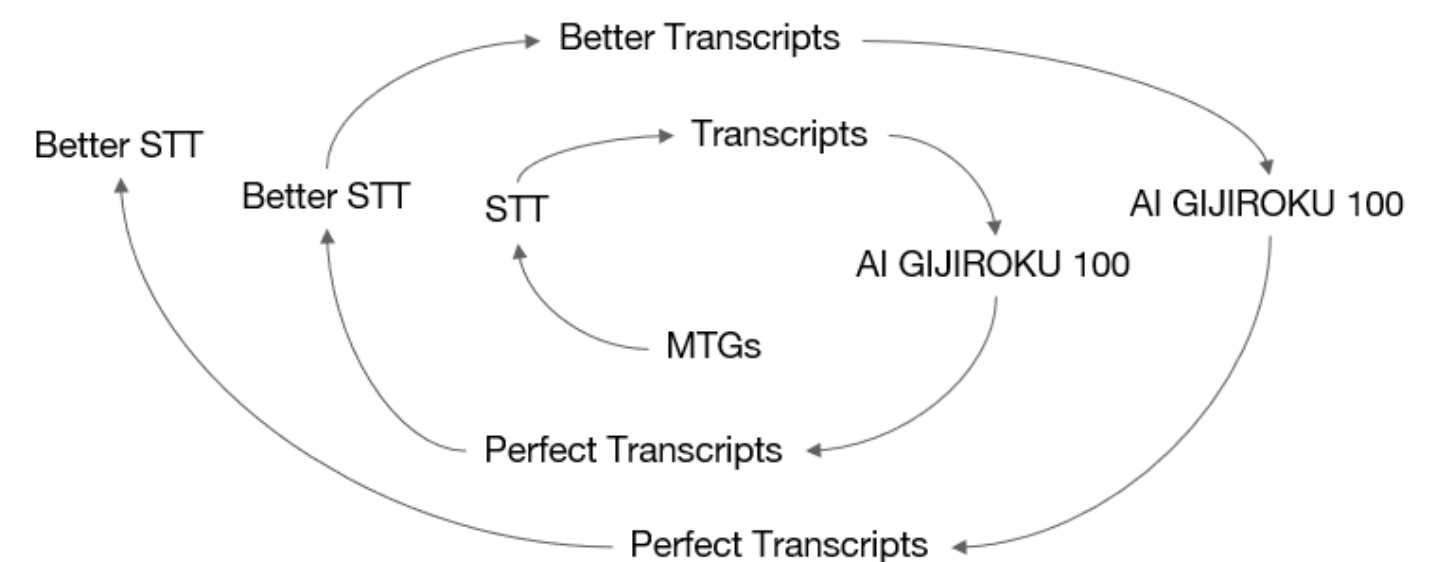
Product

- 人力による文字起こしサービス

Feature

- 会議、講義、インタビュー、その他のイベントの音声やビデオ録音を人力でテキスト形式に文字起こしするサービスを提供
- 日本語の文字起こしに加えて、英語の録音、バイリンガル（英日）の録音、法廷提出書類、医療関連のコンテンツの文字起こしサービスも提供

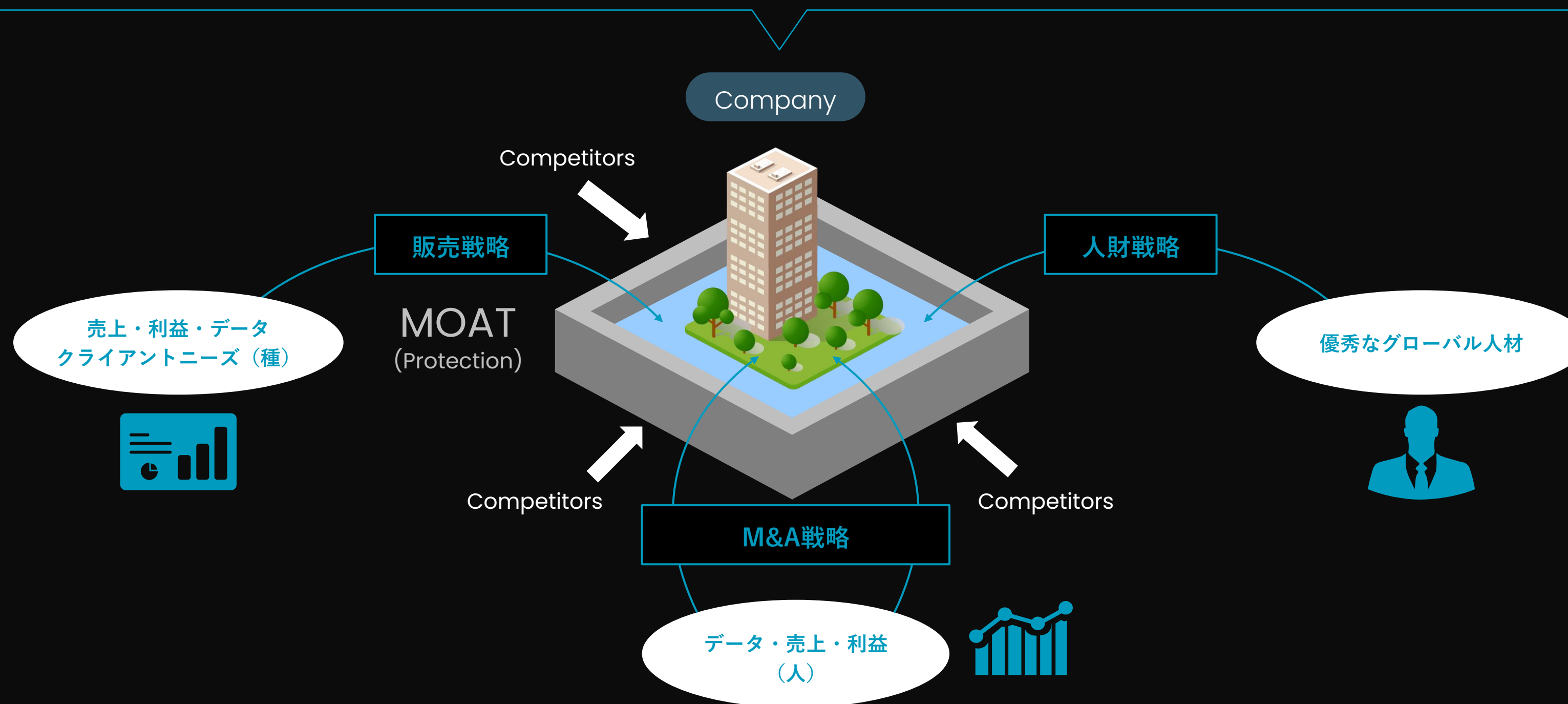
オルツにとっての意義



- 人間が介入することにより、オルツの音声認識システムにHuman-in-the-loopを導入することで、誤った音声認識結果が迅速に修正されるメカニズムが確立。良質な学習データとして活用することで、オルツの音声認識システムの精度向上がより効率的に進むことが期待
- さらに、Human-in-the-loopは、音声認識に限らず、オルツの他の機械学習システムにおいても効果的。人間のフィードバックが重要な大規模言語モデル（LLM）など、オルツが提供するさまざまなサービスの精度向上に貢献することが期待

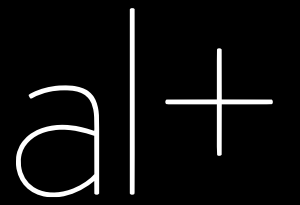
各戦略（販売戦略・人財戦略・M&A戦略）を駆使して今後も競争優位性を保ち、継続的かつ非連続な成長を実現していく

技術	事業	人財
豊富な基礎技術とアカデミア連携	P.A.I.クローンの先行者利益 (パーソナルAI=オルツ)	壮大なビジョンへの共感
パーソナライゼーション技術の先行者利益 かつ技術ノウハウ	生成AIユースケース提供への グローバル企業の関心の高まり	グローバルで、自由な環境

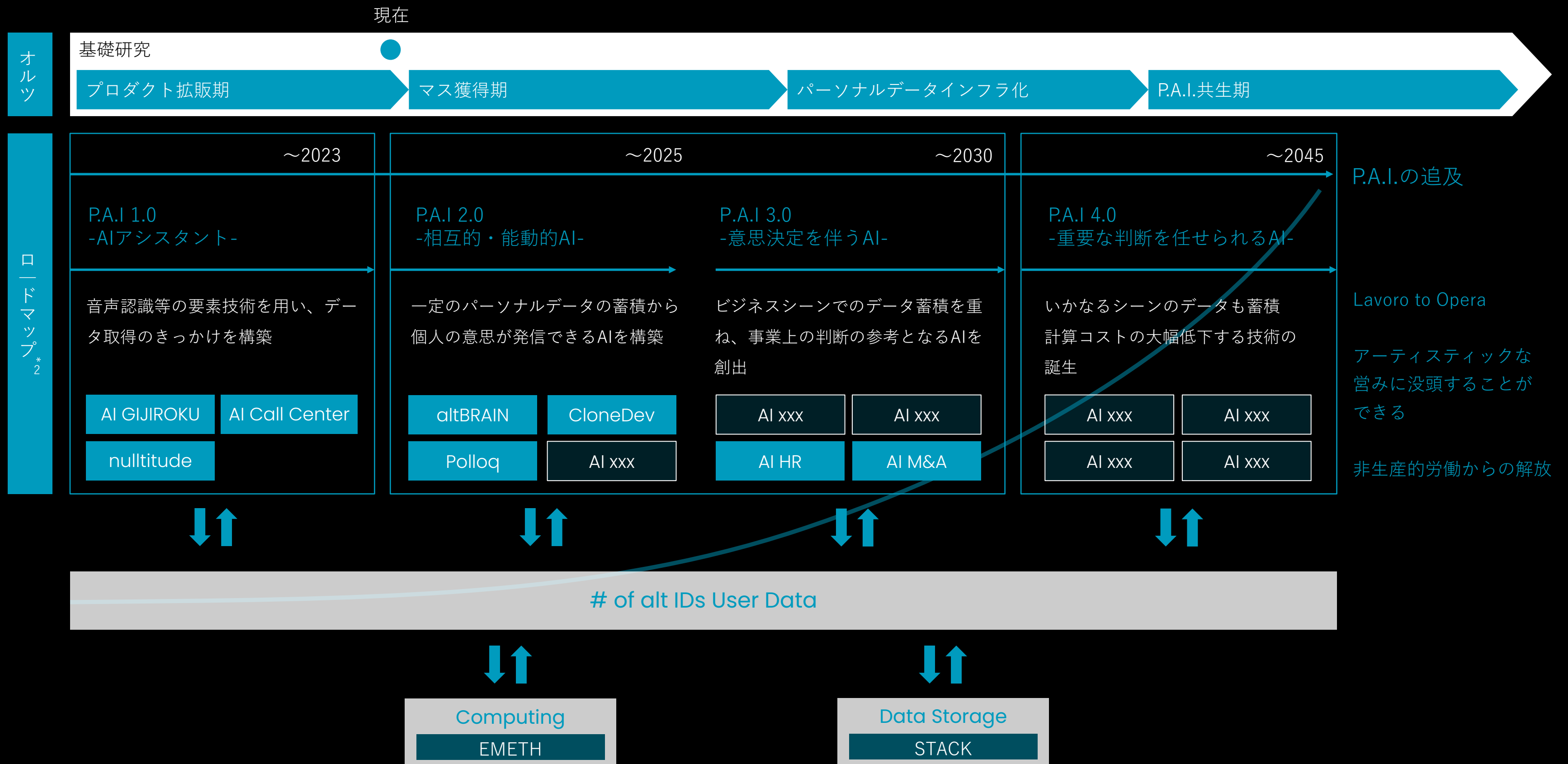


参考情報

P.A.I. Roadmap

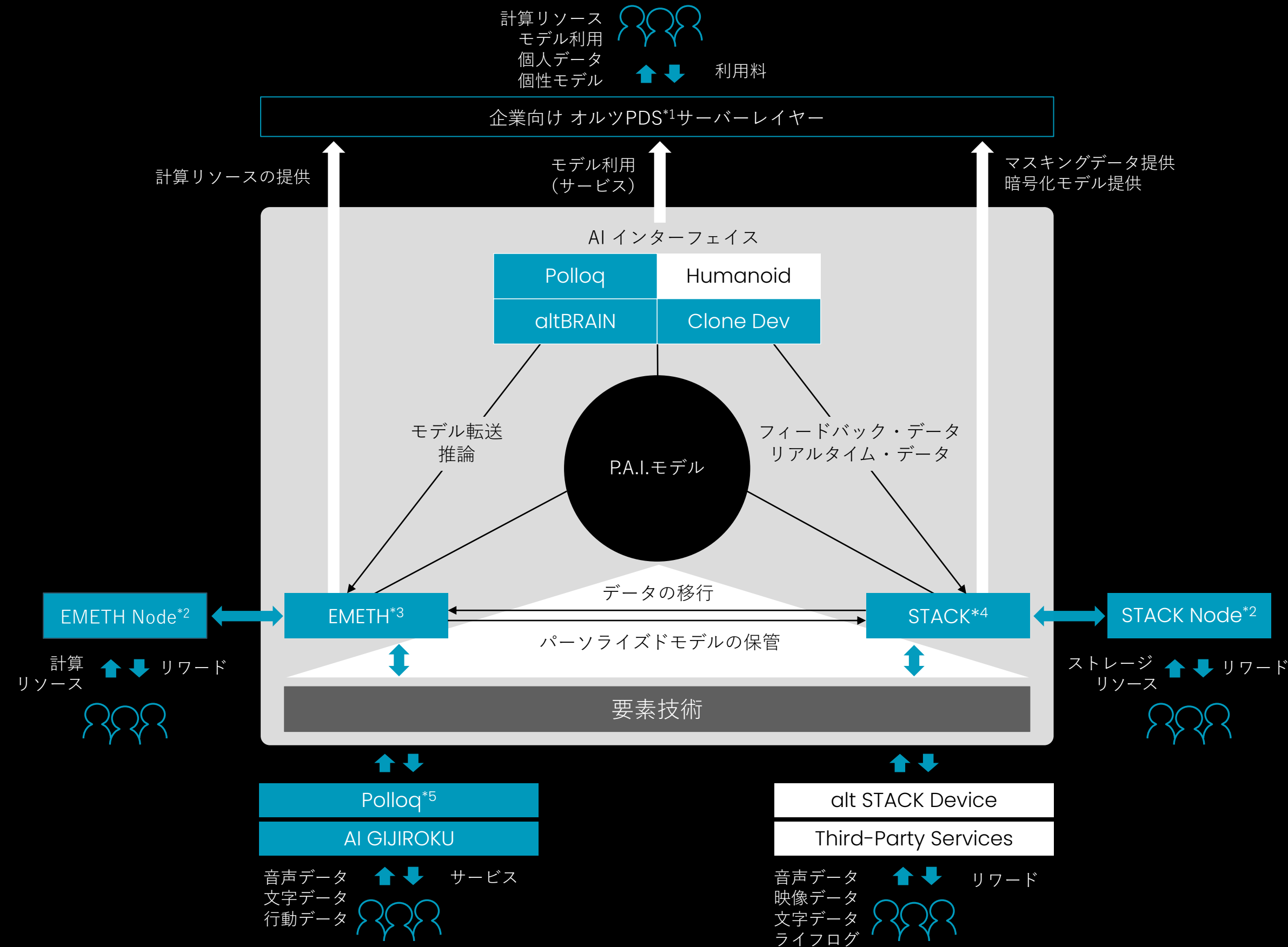


データの蓄積と技術進化を経て、P.A.I.実現に向かうロードマップ。キーとなるのが横断的なデータ取得を可能にするSSO*1のalt IDであり、これを基盤としたデータ収集・研究開発・ユーザー獲得・パーソナライズ技術を強化していく



*1 SSO：シングルサインオン。IDとパスワードを一度入力するだけで複数のサービスにログインして利用できる仕組み *2 「AI xxx」は今後開発予定のAIプロダクトイメージ

以下に示すように、個人個人のP.A.I.を管理する次世代のプラットフォームビジネスの実現を目指す



現時点で実現できていること

- 中心にあるP.A.I.モデル。AI GIJROKUや Polloq を初めとするサービス群から個人を構成する元となるデータを蓄積
- この蓄積された個人データを用い、各ユーザーごと・人格ごとの P.A.I. モデルを構築
- モデル構築やデータ蓄積に係る計算リソース (EMETH Node) の提供

将来実現を目指すもの




- 個人データを取得するサービスの拡張として Alt STACK Device (仮) や、他社サービスとの連携 (Third-Party Services)
- 元データの提供ユーザーの許可を元に各P.A.I.モデルの利用が許可。 P.A.I. モデルの利用には課金を伴うことも可能なので、利用実績に応じて P.A.I. モデルの所有者 (つまり、元データの提供者) への利益還元

*1 Personal Data Store : 個人が自らのパーソナルデータを保存・管理する仕組み *2 Node : 計算力提供者を表す *3 EMETH : 分散コンピューティングに係る独自のインフラストラクチャー技術 *4 STACK : 分散ストレージに係る独自のインフラストラクチャー技術
*5 Polloq : 汎用LLMを基盤とした自動オペレーションシステム。オペレーションシステムとアプリケーションの間に位置するイメージ

AI Products事業 Communication Intelligence “AI GIJROKU” 機能・価格体系



2020年ローンチのCommunication Intelligence “AI GIJROKU”はオルツがこれまで研究開発してきた独自の技術が盛り込まれたプロダクト

 <p>特徴 1 LLMを活用したAI要約</p>	 <p>特徴 2 パーソナルエージェント</p>	 <p>特徴 3 コミュニケーションデータレイククラウド</p>
<p>自社開発の大規模言語モデル「LHTM-2」を使用して会議議事録の要約を作成</p>	<p>Communication Intelligence “AI GIJROKU”の使い方の学習から議事録の収録、利用者が開いている画面のテキストの要約、ToDoの洗い出しや整理まで多岐にわたる業務をaltパーソナルエージェントがサポート。利用者（蓄積したデータ）に応じて実務で活用可能なAIの創出も可能</p>	<p>議事録経由で取得した高精度のパーソナルデータをストックし、さらなる精度向上や新たなAI構築のためのベースとして活用することが可能。P.A.I.に向けたデータ取得にも寄与する</p>

料金プランと機能

	プラン	月額利用料	議事録収録時間	最小アカウント数	高精度・業種別音声認識
個人	フリー	無料	閲覧のみ	1	閲覧のみ
	パーソナル	1,500円/月	10時間/月	1	100分/月
法人	チーム	29,800円/月	100時間/月	10	1,000分/月
	ビジネス	200,000円/月	1,000時間/月	100	10,000分/月

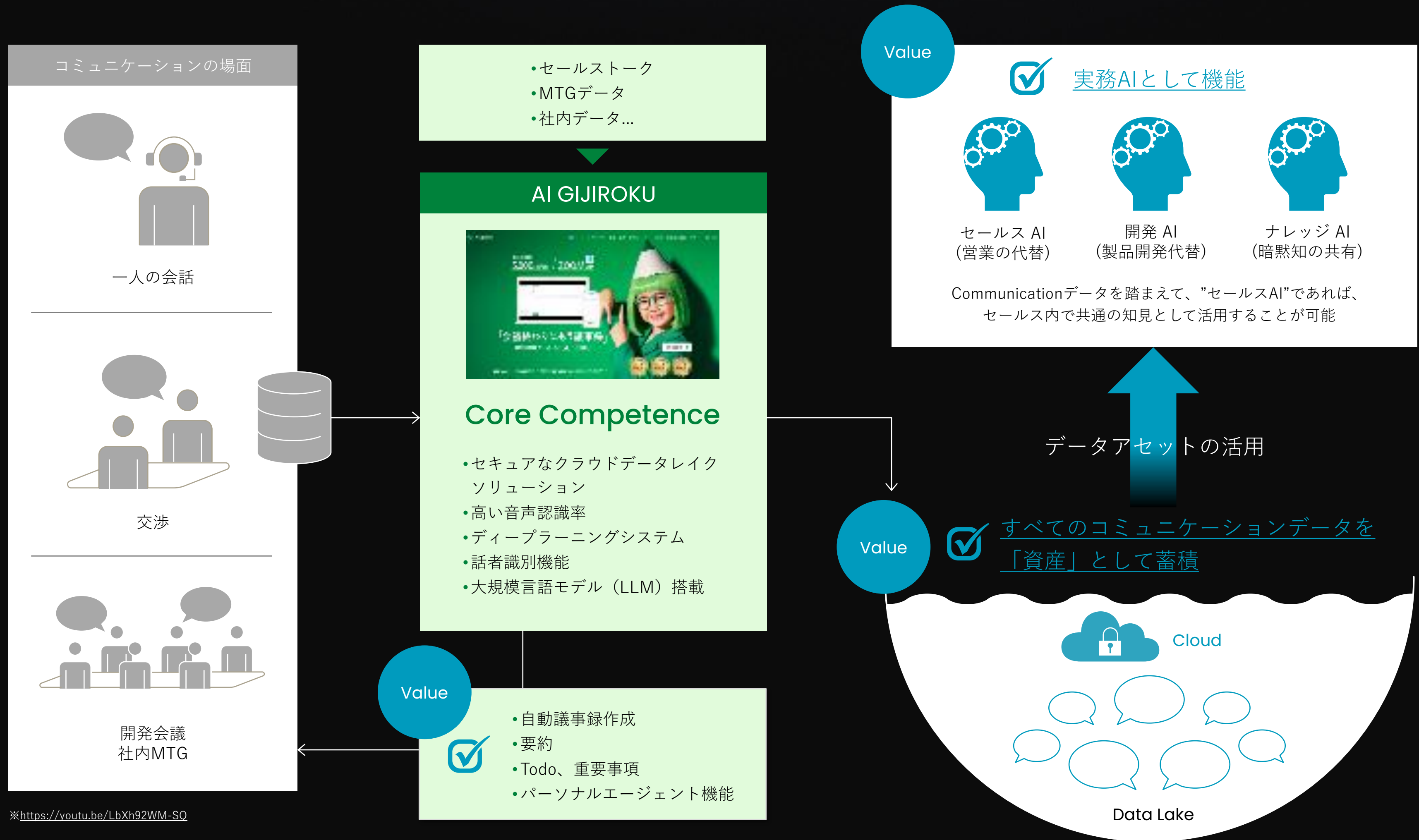
Communication Intelligence “AI GIJROKU”はデータレイククラウドの機能を有するため、パーソナライズAIエージェント生成まで提供が可能

	 Communication Intelligence “AI GIJROKU”	一般的な 音声認識ツール	一般的な AI bot	ChatGPT などの生成AI
パーソナライゼーション(個人の耳や思考(脳内辞書)に基づいた音声認識と生成AIの個性化)	○	汎用型が主で基本的には付帯されていない	—	汎用型が主で基本的には付帯されていない
高精度AI自動文字起こし	○ MTGでリアルタイムに高精度な文字起こしを実現	高精度文字起こしを売りにするプロダクトが一定存在	—	日本語の対応には専門プロダクトから一定の劣後も
多言語翻訳	○ 35言語 (リアルタイムは30) に対応	機能として付帯	—	機能として付帯
完璧な精度(人力機能)	○ 99%以上の精度に加えて人力文字起こし機能有	人力サポートは備わっていない	—	人力サポートは備わっていない
LLMによる要約	○ 自社開発のLLMを活用したAI要約	一部プロダクトには付帯	—	高パラメータLLMが付帯
コミュニケーションデータの蓄積(データレイククラウド機能)	○ セールストーク等のパーソナルデータのストック機能	—	—	—
オリジナルbot機能*1	○ Web会議に話者に合わせて自動で音声認識、議事録生成を行うbotの入室が可能	—	基本機能として付帯	API連携したプロダクトは存在
パーソナルエージェント機能	○ “自社データに基づいた”パーソナルエージェント機能。蓄積したデータに基づき独自のAIとして利用可	—	一部プロダクトには付帯	汎用型には備わっていない

*1 特定の人間の代わりに文字起こしや要約、文章生成等を自動的にを行うプログラム

AI Products事業 Communication Intelligence “AI GIJROKU”の活用フロー

Communication Intelligence “AI GIJROKU”はコミュニケーションデータを「資産」として蓄積し、企業内の実務で活用するためのAI創出に寄与



※<https://youtu.be/LbXh92WM-SQ>

AI Solutions事業 次なるAI Product候補ラインナップ



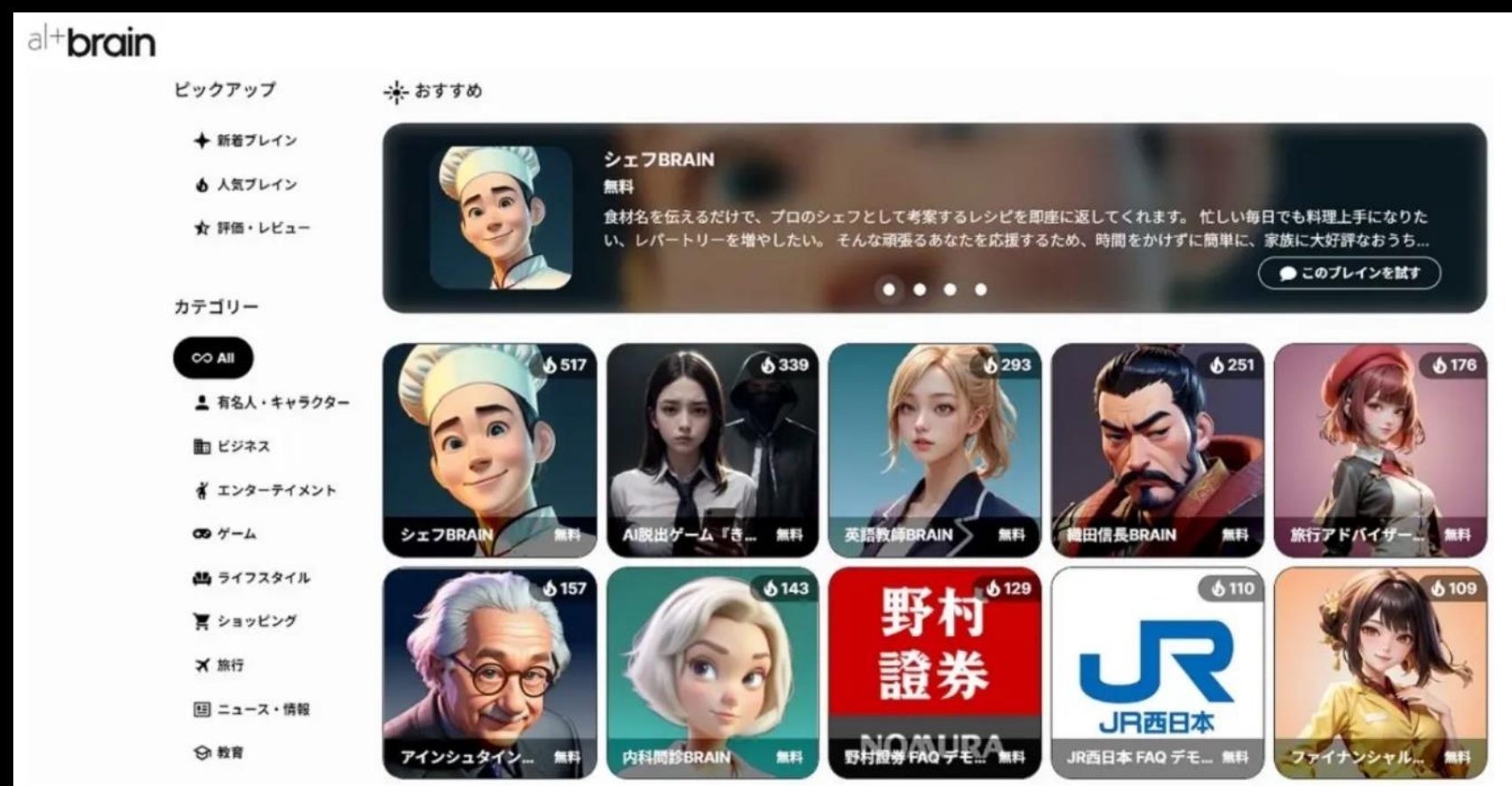
Communication Intelligence “AI GIJROKU”に次ぐ、AI Solutions事業として展開するPoC段階のプロダクトも多数存在。PMFを経て、今後は正式なプロダクトとしての展開も視野に



プロダクト名	altBRAIN ^{※1}	Clone matching ^{※1} (CloneM&A) Clone matching ^{※1} (CloneHR)	CloneDev ^{※1}	AIコールセンター ^{※1}	EMETH GPU POOL ^{※1}
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> 音声認識 音声合成 LLM/GenAI 	<ul style="list-style-type: none"> LLM/GenAI 	<ul style="list-style-type: none"> 音声認識 映像合成 音声合成 LLM/GenAI 	<ul style="list-style-type: none"> 音声認識 音声合成 LLM/GenAI 	<ul style="list-style-type: none"> 分散コンピューティング
機能提供価値	<ul style="list-style-type: none"> AI bot作成 ノーコードで作成可能 パーソナルエージェント 	<ul style="list-style-type: none"> AIマッチング Clone同士によるマッチング LLM活用による高精度 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルクローン生成 パーソナルエージェント 	<ul style="list-style-type: none"> クラウドコールセンター 音声対話AIソリューション 	<ul style="list-style-type: none"> GPUクラウド GPUリソースのホスティング
ローンチ時期	2023年	2024年 ^{※2}	2023年	2021年	2024年
販売モデル	セールspartner & 自社ダイレクトセールス				
クライアントターゲット市場	現状は国内フォーカス	国内中小企業メイン 国内全企業対象	グローバル全企業 足許国内にフォーカス	国内企業	グローバル全企業 足許国内にフォーカス
P.A.I.構築に向けての役割	簡易版P.A.I.の位置付けとして利用市場ニーズを拾い上げるための役割	マッチング領域における心理的要因等の非財務データの収集、アルゴリズム最適化	デジタルクローンのユース確認と、連携するライフログデータで精度を高める検証	VOC蓄積による個人のクセに関する判別制度向上	いかなる個人もP.A.I.にアクセス可能にするための環境整備

※1 現段階は主にPoCとして提供され、AI Solutions事業での収益計上としている ※2 CloneM&Aの正式ローンは2024年夏以降

エンターテインメント領域からFAQの領域までをカバーするAIプロダクト



概要

日付

2023/9/6 ローンチ

機能

「altBRAIN」は、「LHTM-2」を活用した生成型AIプラットフォームであり、コーディングの必要なく、大名や著名人（例：織田信長）、ゲーム戦略のBRAIN、内科や小児科の医学研究のBRAINなど、さまざまなBRAINの簡単な作成が可能

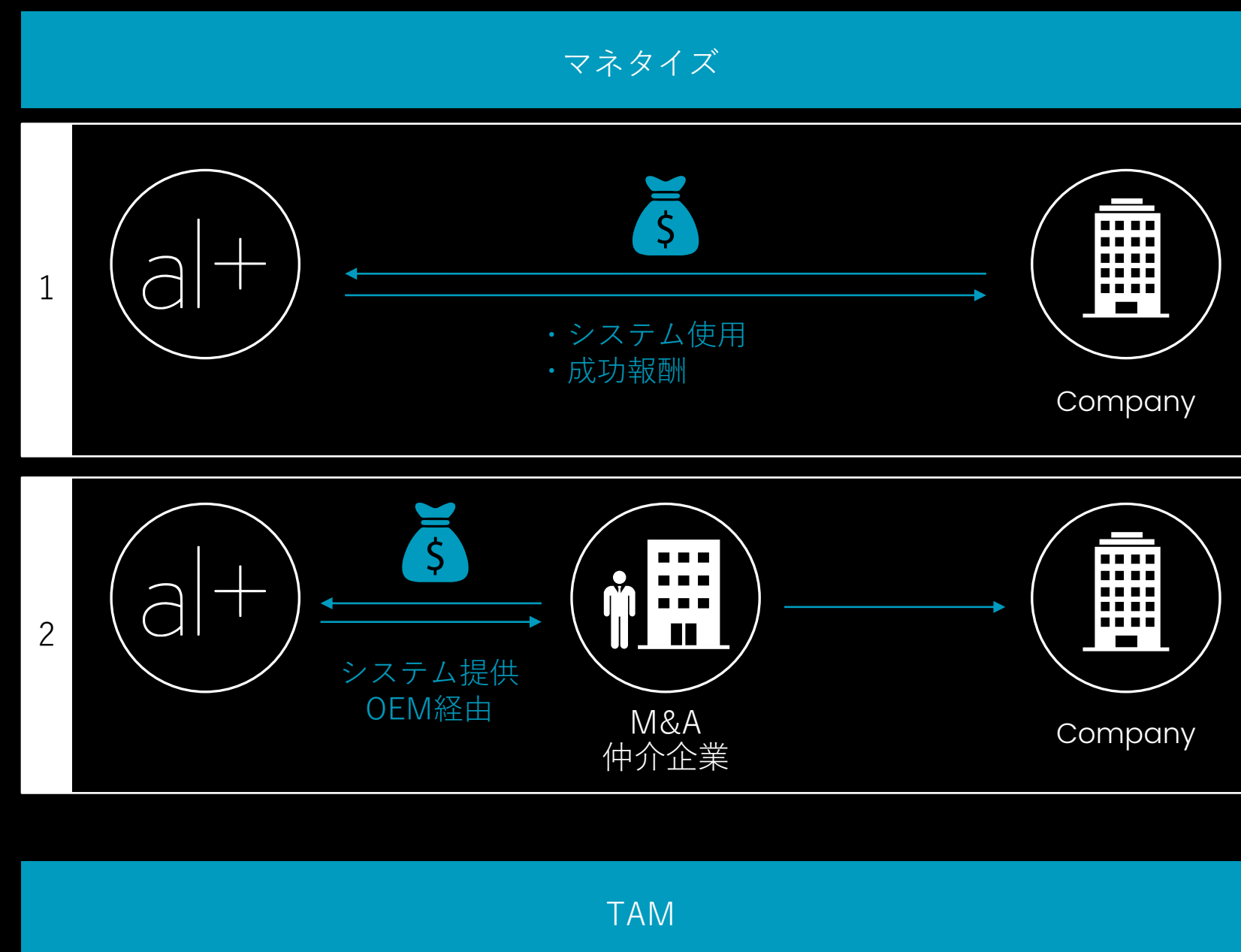
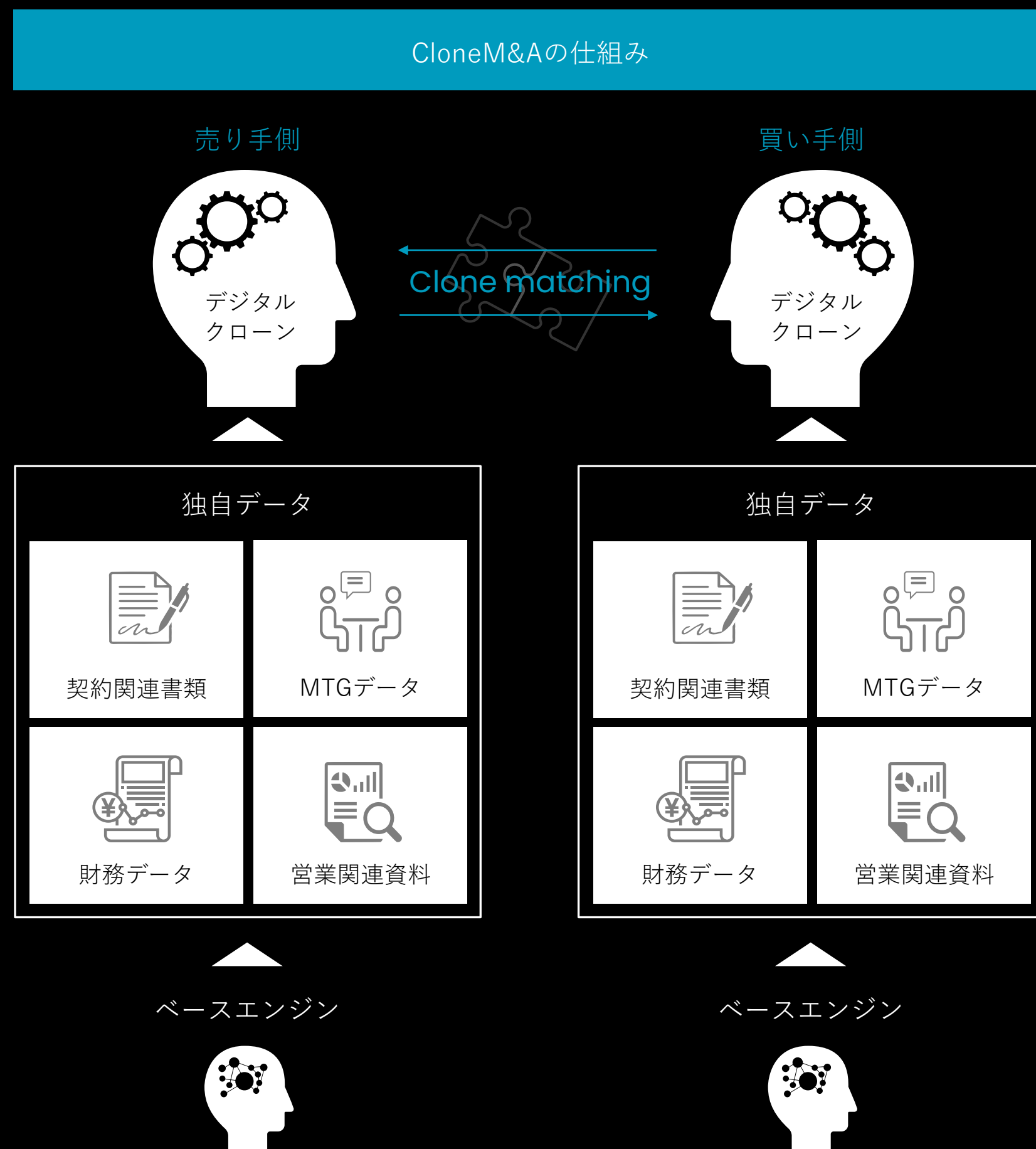
利用シーン

エンターテインメント業界から企業内専門システムやFAQシステムまで、さまざまなアプリケーションに合わせたBRAINを迅速に構築し、生産性向上等に使用

CloneM&A 概要



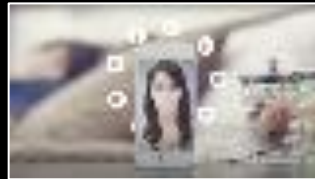
独自の企業データから学習したクローンをマッチングさせる仕組み



6.3tn JPY*1

*1 「Potential market size for domestic SME M&A」、2035年までの事業承継型国内M&A仲介市場の市場規模合計

P.A.I.



alt.ai P.A.I. movie made in 2016
<https://www.youtube.com/watch?v=AqTDorosHwY>



P.A.I. concept from CEO made by Vertex in 2023
<https://www.youtube.com/watch?v=j5T3NbC1oeA>



Our Vision Personal A.I
https://youtu.be/ZFPg_RJeqw8?feature=shared

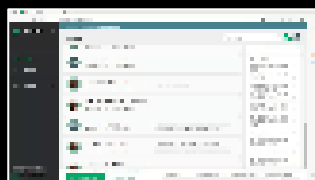


Our DX Solutions Video in 2023
<https://www.youtube.com/watch?v=cMvKYvIUlmo>

AIプロダクト



Brand New Product 「Polloq」
<https://www.youtube.com/watch?v=9GrsHPu15iQ&feature=youtu.be>



Demo Video 「AI GIJROKU」
<https://drive.google.com/file/d/1QIIYnNAT8MQqS5hLEqV1wVhyTUFnRaXK/view?usp=sharing>



Demo Video 「altBRAIN」 (Japanese)
https://drive.google.com/file/d/1HVIQ_S8ayo7OWcAb3pQ05IMIG-m6zYR7/view?usp=drive_link



Demo Video 「altBRAIN」 (English)
https://drive.google.com/file/d/128bJ4zAvJgUGI-CtOieYorgvcBfXqIVO/view?usp=drive_link



Demo Video 「CloneDev」 (Japanese)
https://drive.google.com/file/d/17g6xw_o4rtAvPjYI6CbdXxBp7Mp2f0aM/view?usp=drive_link



Demo Video 「CloneDev」 (English)
https://drive.google.com/file/d/1qPCgdooGJLjake4tYPtcxliu27yDEqIR/view?usp=drive_link



Demo Video 「Clone M&A」 (English)
<https://youtu.be/I2NpDu02EjY>

本資料の取り扱いについて

- 本資料は、企業情報等の提供のみを目的として当社が作成したものであり、業情報等の提供のみを目的として作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。
- 本資料には、当社に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」、「見込み」やこれらの類義語が含まれることがありますが、これらに限られるものではありません。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報をもとに、本資料の作成時点における当社の判断に基づいて記載したものであり、また、一定の前提（仮定）の下になされており、さらに、その性質上、様々なリスク、不確実性その他の要素を伴います
- 本資料には、当社の競争環境、業界のトレンドや一般的な社会構造の変化に関する情報等の当社以外に関する情報が含まれています。当社は、これらの情報の正確性、合理性及び適切性等について独自の検証を行っておらず、いかなる当該情報についてこれを保証するものではありません。
- なお、本資料のアップデートは今後、通期決算発表時期を目途として開示いたします。

a|+